



the  
**REFORMATION**  
*herald*

Vol. 60, No. 6

永遠の一歩手前

年末祈祷週 2019年12月6日-15日

# The Reformation Herald

Volume 60, Number 6

## 永遠の一歩手前

### 祈祷週2019年12月6日-15日

編集記

**永遠の一歩手前** 3

金曜日2019年12月6日

**終わりの危機のための準備** 4

安息日2019年12月7日

**幾世紀分の差し迫った危機** 9

日曜日2019年12月8日

**最後の憐れみのメッセージ** 13

水曜日2019年12月11日

**預言と約束** 18

金曜日12月13日2019年

**ドラマの最後の場面** 22

安息日12月14日2019年

**キリストが聖所を去られるとき** 27

日曜日12月15日2019年

**祝福された望み** 32

詩

**時のしるし** 37

### 祈祷週

長い旅路では、最終的な到着を切望するうちにたやすく疲れてしまいます。ときには、目的地があまりにも非常に遠くに見えて、代わりに他のことを考えてしまう傾向があります。しかし、わたしたちが最終的に目的地に近づくにつれ、新たな決心とより強い緊急性 – そして希望 – の自覚があります。神の民は今日、地上のどんな旅行よりもはるかに重要な靈的な旅の途中です。わたしたちは実際には永遠の一歩手前にいます。時のしるしは急速にわたしたちの周りで成就しており、主はまもなく天使長の声と神のラップの音と共に下ってこられます。

わたしたちの憐れみ深い主なる救い主は、わたしたちにもう一度祈祷週を迎えるためにもう一年、わたしたちを支える必要があると思われました。これは本当にわたしたちに影響を与えていたのでしょうか？「神はこう言われる、『わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなたを助けた』。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である」（コリント第二6:2）。

今年の読み物、「永遠の一歩手前」は、わたしたちを鼓舞し、墮落した地球のための恩恵期間が閉じる前に地と海と空の主と共に歩むという甚大な特権を思い起こさせるためのものです。

各自は祈りをもってこれらの読み物を考察し、それらを遠隔地や家から出られない人と分かち合いましょう。そして下記の日にちを覚えてください。

**断食の日:** 安息日12月14日

**ミッションのための献金:** 日曜日12月15日

キリストの御靈がわたしたちの主の来臨を熱心に待ち望むことにおいて新しい活力を吹き込んで下さるようにというのが、わたしたちの祈りです。そしてわたしたちがまもなく次の言葉をもって心からこのお方にお目にかかることができるよう、わたしたちの心を強めて下さいますように。「その日、人は言う、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちはその救を喜び楽しもう」と。」（イザヤ25:9）。アーメン！

## 編集記

### 永遠の一歩手前

イスラエル人は約束の地－彼らの最終的な目的地、終局の目的地－に近づいていました。40年間の荒野における旅路は今、彼らの背後にありました。彼らが絶えず反逆的な態度であったため、彼らのほとんどは荒野で死に、とり残されました。

サタンは喜んでいませんでした。彼は神の民がカナンの地に入ることを妨げるために力を尽くすつもりでした。今、彼は神が彼らに対してご不興を覚えるよう群衆に多大な損害を生じさせるため、背教した預言者を用いようとしていました。こうして彼らを滅ぼすためでした。

一時期バラムは神の預言者だったことがありました。しかしその後、彼は背教しました。今かつての神の預言者はバラクに、神の民がまさにカナンの国境にいるときに、どのようにして彼らを破滅させるか悪魔的な計画を提示しました。この計画に彼は、彼らの感覚を曇らせ、胸の悪くなるような退廃的な偶像礼拝へと引き込むために、異教との友好関係、官能的な音楽、ダンス、官能的な女、そして酒をとり入れました。

聖書はこれらを要約して次のように述べています。「イスラエルはシステムにどまっていたが、民はモアブの娘たちと、みだらな事をし始めた。その娘たちが神々に犠牲をささげる時に民を招くと、民は一緒にそれを食べ、娘たちの神々を拝んだ」（民数記25:1, 2）。

神は24,000人のイスラエル人を滅ぼす深刻な疫病を送られました。この恐ろしい道徳的な災害とその即座の結果を顧みて、パウロは次のように記しました。

「これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、「民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた」と書いてある。また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。…これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてあって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである」（コリント第一10:6-8, 11）。

わたしたちは永遠の一歩手前に生存しています。わたし

たちが非常にまもなく主にお会いしようとしているこの時は非常に厳肅で危険な時です。そしてサタンは神の民が天の約束された地に入るのを妨げるために彼の最も強力な武器を用いる事でしょう。

「サタンは人間の心を扱うのに用いる材料を熟知している。彼は数千年にわたり、うむことなく研究してきたので、あらゆる人間を最も容易に攻撃することができる点を知っている。彼は各世代にわたって、ペオルのバアルにおいてみごとに成功したのと同じ誘惑により、最も強固な人間、イスラエルのつかさたちをくつがえそうと働いてきた。どの時代にも、官能の耽溺という岩に乗り上げて難破した人々が大ぜいいた。時が終わりに近づき、神の民が天のカナンの境界に立つとき、サタンは、昔と同じように、彼らをよい地にはいらせまいとして、いつそう努力する。彼はひとりひとりにわなをしかける。気をつけなければならないのは、無知で無教育な人々ばかりではない。彼は最も高い地位、最も聖なる職務の人々をも誘惑する。もし彼らをいざなってその魂を堕落させることができれば、彼らを通して多くの人々を滅ぼすことができる。そして彼は今も、三千年前に用いたのと同じ手段を用いる。この世の交わり、美貌の魅力、快樂の追求、歡樂、安樂、飲酒などによって、彼は第七条を犯させようとする。…」<sup>1</sup>

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」（コリント第一10:12）。

わたしたちが天のカナンに近づくとき、主がご自分の民に恵み深く憐れみ深くあられますように！

## 引用

<sup>1</sup> 人類のあけばの下巻p71 [強調付加]

# 終わりの危機のための準備

E. G. ホワイトの著書編纂

## 目覚めさせる幻

1850年、6月27日に与えられた幻の中で、わたしと一緒にいる天使が、「時はほとんど過ぎ去った。あなたは、イエスのうるわしいかたちを十分に反映しているであろうか」と言った。それからわたしの注意は、地上に向けられた。そして、第三天使のメッセージを最近信じた人々は、もっと準備を整えていなければならぬことを見た。天使は、「準備しなさい、準備しなさい。あなたがたは、これまで以上にもっと世に対して死ななければならぬ」と言った。彼らのために大きな働きがなされるべきであったが、それをする時がほとんどないのを、わたしは見た。

それから、わたしは、避難所を持っていない人々の上に、最後の7つの災害がまもなくだらうとするのを見た。しかし世の人々は、それを水のしづくが降ってくるぐらいにしか考えなかつた。それからわたしは、最後の7つの災害、すなわち神の怒りの恐ろしい光景を見るのに、耐える力が与えられた。わたしは、神の怒りが非常に恐るべきものであるのを見た。そして、神が怒ってみ手をのばすか、またはあげるかなさるならば、世界の住民はあとかともなくなってしまう。あるいは、彼らは不治のでき物に悩まされ、恐ろしい災害に苦しむ、そして彼らは、救われることができずに災害に滅ぼされるのである。わたしは恐怖に襲われた。その光景があまりにも恐ろしかつたので、わたしは天使の前に顔を伏せてその光景を取り除き、わたしに見せないようにしてほしいと天使に願つた。その時ほど、わたしは、聖書が豈とその像とを押し、額や手に刻印を受ける神を信じないすべての者上にくだると宣言している災害を逃れるために、神のみ言葉を忠実に探ることの重要性を感じたことはなかつた。このように恐るべき警告と非難が、人々に向けられているにもかかわらず、彼らが神の律法を破り、聖安息日をふみにじることができるとは、大きな驚きであった。<sup>1</sup>

## より大きな準備

…それからわたしの目は…地上の残りの民に向けられ

た。天使は彼らに言った。「あなたがたは、最後の7つの災害を避けたいと思うだらうか。あなたがたは神を愛し、神のために喜んで苦難を忍ぶ者のために、神が備えられたすべてのものを、天国に行って受けたいと思うだらうか。もしそうならば、あなたがたは生きるために死ななければならない。…すべてを犠牲として神にさげなさい。自分も、財産も、すべてを生きた供え物として、神の祭壇の上にのせなさい。天国に入るためには、すべてのものが必要である。あなたがたは、自分のために盗人が近づかず、さびもつかない天に宝を蓄えなさい。あなたがたは、将来、キリストと共に彼の栄光にあづかろうと思うならば、この地上でキリストの苦難にあづかる者でなければならない。」

もし苦難によって、天国が得られるとするならば、それはまことに安価なものである。われわれは常に自己を否定し、日毎に自己に死に、イエスだけをあらわすようにし、絶えず彼の栄光を心に留めていなければならない。わたしは、近ごろ真理を信じた人々が、キリストのために苦しむとはなんであるか知らねばならないのを見た。また、彼らが激烈な試練を経なければならないことを見た。それは、彼らが生ける神の印を受け、悩みの時を通過して、麗しく飾った王を見、神ときよい聖天使の前に住むようになるために、苦難によって清められ、ふさわしいものにされるためである。

天上の栄光を受け継ぐためにわれわれはどうなるべきか、また、このように尊い嗣業をわれわれのために確保するため、イエスがどんな苦難に会われたかをわたしが悟った時に、わたしはキリストの苦難のバプテスマを受け、試練にもひるむことなく、忍耐と喜びをもって、耐え忍ぶことができるようになることを祈り求めた。…<sup>2</sup>

真理の重要性やその及ぼす影響についての自覚を持たず、一時の衝動や興奮によって行動し、しばしば感情に走つて、教会の秩序を無視する人々があるのを、わたしは見た。このような人々は、宗教というのは、主として騒音をたてるにあると考えているようである。第三天使のメッセージを受けいれたばかりの人の中には、長年真理に固く立

ち、真理のために苦しみ、その清めの力を感じた人々を、譴責し教えようとする者がある。このように、敵にそそのかされて思い上がった人々は、真理のきよめのを感じ、真理を見出す時に、自分たちが「みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者」であったことを自覚しなければならないだろう。真理を愛して、それを受けいれる時に、真理は必ず不純物を取り除いて、心を清めるのである。この大きな働きが行われた者は、自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もないとは言わなくなる。

真理の根本原則を学ぶ前に、真理を公言し、すべてを知ったと考え、大胆にも教師の地位を占めて、長年真理に固く立った人々を譴責する者は、真理とその結果とを理解していないことを明白に示しているのである。なぜならば、もし彼らが清めの力をいくらかでも知っていたならば、彼らは、おだやかな義の実を結んで、その麗しい強力な影響のもとで謙遜になったことであろう。彼らは、神の栄光となる実を結び、真理が彼らのために何をしたかを理解して、自分たちよりも他の人々を尊重するようになる。

わたしは、残りの民が、この地上に起ころうとしているのために、準備をしていないのを見た。最後のメッセージを持っているという信仰を公言する人々の大部分は、昏睡状態のような無感覚に陥っている。わたしと一緒にいた天使は、非常な厳粛さをもって叫んだ。「準備せよ、準備せよ、準備せよ。神の恐ろしい怒りが間もなく臨もうとしている。神の怒りは、憐れみを混じえないで、注がれようとしている。それなのに、あなたがたは準備ができていない。衣を裂かないで、心を裂きなさい。残りの民のために、大いなる働きがなされなければならない。彼らの多くは、小さい試練に心を奪われている」。天使は、また言った。「悪天使の軍勢が、あなたがたの回りにいて、あなたがたをわなにかけて捕るために、その恐ろしい暗黒を忍びこませようとしている。あなたがたは、準備の働きと、この最後の時代のために、何よりも重要な真理から簡単に心をそらせてしまう。そして、あなたがたは、小さい試練に心を奪われている。そして、ちょっとした困難の細かな点まで、だれかの満足を得るために説明しようとしている」。両者の心が恵みによって和らげられていなければ、関係者間の話し合いが何時間も続き、彼らの時間だけでなくて、それを聞くために引き留められた神のしもべたちの時間も浪費されるのである。もし、誇りと利己心が取り除かれれば、たいていの問題は、5分間で解決する。

自己を正当化するために多くの時間が用いられることが多い。天使たちは悲しみ、神は不快に思われる。神は、自分を正当化する長い言葉に耳を傾けず、また、彼のしもべたちがそうするのを望まれないことを、わたしは見た。こうして、罪人に彼らの道の誤りを示し、火の中から魂を救い出すために用いられるべき尊い時間が浪費されるのである。

わたしは、神の民が、魔法をかけられた国におり、ある者は、時の短いことや魂の価値について、全くといつていいほど自覚を失っているのを見た。安息日遵守者の中に、誇り、すなわち、衣服や外観の誇りが忍びこんでいる。「安息日を守る人々は、自己に死に、誇りと人の賞賛を求める心に死ななければならない」と天使は言った。<sup>3</sup>

### わたしたちの優先順位を正しくする

われわれは、真理、すなわち救いの真理を、暗黒の中にいる飢えた人々に与えなければならない。わたしは、多くの人々が、神に、謙遜にしてくださるように祈っているのを見た。しかし、もし神が彼らの祈りに答えられるとするならば、恐るべきわざにより、義のうちに答えられるのである。へりくだることは、彼らの義務であった。もし、自己称揚が入ってくることを許すならば、魂は、必ず道に迷い、それに勝利するのでなければ、彼らは破滅に陥ることを、わたしは見た。人が、高ぶった思いをもって、自分には何かできることがあると思うようになると、神の靈は取り去られる。そして、彼は、自分自身の力によって進んで行って、ついに倒れてしまうのである。わたしは、もし1人の正しい聖徒があれば、神の腕を動かすことができることを見た。しかし、もし間違っているならば、どんなに数は多くても、彼らは弱々しく、何もなしとげることができない。

多くの人々の心は、和らげられてもいなければ、謙遜にもなっていないで、罪人の魂のことよりは、自分自身のささいな不平や試練のことを考えている。もしも彼らが、神の栄光のことを考えるならば、彼らのまわりの滅びつつある魂に同情することであろう。そして、彼らが、人々の危険な状態を悟ったならば、神に対する信仰を働かせて活発に動き、神のしもべたちの手を支えて、彼らが大胆に、しかも愛をもって真理をのべ伝え、魂に警告を発して、憐れみ深いみ声が聞こえなくなる前に、彼らが救いを得られるようにすることであろう。「神のみ名を公言する人々は、準備ができていない」と天使が言った。わたしは、最後の7つの災害が、おお

いのない悪人たちの頭上にくだるのを見た。その時、彼らの救いの妨げとなっていた人々は、罪人たちの激しい非難の声を聞いて、悩み苦しむのである。

「あなたがたは、つまらぬあらさがしをし、ささいな試練に心を奪われてきた。そのために罪人は失われなければならない」と天使は言った。神は、われわれの集会において、われわれのために働くとしておられる。そして、神は、働くことを喜ばれる。しかし、サタンは、「わたしは働きを妨げる」と言っている。彼の部下たちは、「アーメン」と言っている。信者であると言っている人々は、サタンが引き起こしたささいな試練や困難に心を奪われている。浪費した時間は、2度と取り戻すことができない。<sup>4</sup>

わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないので、神のみ前に生きるためににはどのような状態でなければならないかを、悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしているながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」（後の雨）とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするために、すべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかつた。預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従つて、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだる時になって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間もなく、天の父の前で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない。…すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれ1人として、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。だから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は、聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。<sup>5</sup>

## テストの時

すべての人に試みの時がやってくる。試みのふるいによって、ほんもののキリスト者が明らかにされる。神の民は、自分の感覚的証拠に屈しないほど、今神のみ言葉に固く立っているだろうか。こうした危機においても、彼らは聖書に、しかも聖書だけにすがりつくだろうか。サタンは、できることなら、彼らがその日に立つ備えをするのを妨げようとする。サタンは彼らの道をふさぎ、この世の宝で彼らを迷わせ、重くて疲れさせる荷を負わせて、その心をこの世の煩いでいっぱいに満たし、試みの日が盗人のように彼らを襲うようにと、事を運ぶであろう。

キリスト教国のさまざまな為政者たちが、戒めを守る者たちを抑圧するために出した法令によって、政府の保護が取り除かれ、彼らが彼らの滅亡を願う者たちの手にまかされると、神の民は都市や村から逃れ、群れを作つて最も荒れ果てた寂しい場所に住む。多くの者は山のとりでに避難所を見つける。ピエモンテの谷間のキリスト者たちのように、彼らは地の高い所を隠れ家とし、岩のとりでを神に感謝する（イザヤ33：16参照）。しかし、あらゆる国のあらゆる階級の人々が、身分の高い者も低い者も、富んだ者も貧しい者も、黒人も白人も、大勢の者が最も不当で残酷な捕われの身に突き落とされる。神に愛されている者たちが、疲れきった日々を送り、鎖につながれ、牢獄の格子の中に閉じ込められ、死刑の宣告を受ける。ある者は暗くいまわしい土牢の中で、餓死するままに放置されているように見える。彼らのうめきを聞く人間の耳はなく、彼らを助けようとする人間の手はない。

この試みの時に、主はご自分の民をお忘れになるだろうか。主は、洪水前の世界に刑罰がくだった時、忠実なノアをお忘れにならんだろうか。平地の町を焼き尽くすために火が天からくだった時、ロトをお忘れにならんだろうか。エジプトで偶像礼拝者たちに囮されていたヨセフをお忘れにならだろうか。イゼベルがエリヤをバアルの預言者と同じ運命にすると誓つて彼を脅かした時、主はエリヤをお忘れにならだろうか。牢獄の暗く陰うつな穴にあったエレミヤをお忘れにならだろうか。火の炉の中の3人の人物を、あるいはライオンの穴の中のダニエルを、お忘れにならだろうか。…

敵が彼らを牢獄に投げ入れても、土牢の壁は彼らの魂とキリストとの交わりを断ち切ることはできない。彼らのあらゆる弱さを見、あらゆる試みを知っておられるお方は、地上

のすべての権力にまさっておられる。そして天使は寂しい独房に彼らを訪れ、天よりの光と平安を伝える。牢獄は宮殿のようになる。それは信仰に富む者がそこに住んでいて、パウロとシラスがピリピの獄屋の中で真夜中に祈りをささげ贊美の歌声をあげた時のように、陰うつな壁が天の光で照らされるからである。<sup>6</sup>

### わたしたちの宗教の本質

「神とわたしたちの隣人への愛は、わたしたちの宗教の本質そのものである。だれもキリストを愛しながら、その子らを愛さないでいることはできない。わたしたちがキリストとつながるとき、わたしたちはキリストの思いを持つ。純潔と愛が品性から輝き出て、柔軟と真理が生活を支配する。顔の表情そのものが変わる。魂のうちに宿られるキリストが、変える力を發揮し、外面が内面を治める平安と喜びに対して証言する。」<sup>7</sup>

わたしたちがキリストのうちにいて、キリストがわたしたちのうちにおられなければならない。そのとき欠点はわたしたちの品性から消滅する。わたしたちが生きるのにイエスに近づけば近づくほど、ますます言葉と品性にこのお方のかたちを反映するようになる。そして神から離れて遠くなればなるほど、命の光から遠く生きるようになり、結果として間違なく、ゆがみ、独断的になり、心は頑なになる。わたしたちは神の御座から来る神聖な光線を集め、そしてそれらを他の人々の道にまき散らすことを一生の働きとすべきである。…

### 実を結ぶ

栄光のうちにある永遠の命のために、あるいは滅びのために準備するのはこの恩恵期間の間である。ここでわたしたちは品性建設の働きに携わるのである。そしてもしわたしたちが成功するなら、主人から「よくやった。忠実な良い僕よ」との歓迎を受けるに値する者となる。キリストは至聖所に入っておられ、わたしたちに目覚めて祈るようにとの言葉を残された。それはこのお方が突然戻ってこられて、わたしたちが寝ているところを見いだされないためである。わたしたちが今、形づくっている品性はキリストが聖所を去られる前に、神の御前に再審査されることになる。ここで神はわたしたちが現世と永遠のために、どの品性を築いてきたかをご覧になる。わたしたちは偉大なるごしえのお方の前に、どのように立つであろうか。わたしたちの熱心な努力を通して、どれくらいの

穀物の束を主人の所へ持つて行くであろうか。

すべての人にその働きが与えられている。その働きとは他の人々のうちに欠点を見つけることではなく、また世を模倣しようと求めることでもない。使徒は次のように言っている、「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである」。これはわたしたちが考える以上の意味がある。世俗の関心に対して死に、世俗の野心に対して死んでいるのである。これは、なんという立場であろうか！…

すべての人に克服すべき品性の欠点がある。そしてそのために、だれも人間はあなたの模範とはなり得ないのである。あなたは単に他の人々がするからするということに満足すべきではない。もし彼らが真理を生きていないなら、それがあなたの不従順を免じてくれるであろうか。あなたは彼らの例に倣うべきではない。あなたは彼らの前で正しい道を生きることによって、彼らを助けるべきである。あなたは個人として、あたかもキリストがあなた一人のために死なれたかのように立つのである。そして、あなたは自分自身でこのお方に会計報告を提出しなければならない。しかし、あなた自身のことばかりでなく、あなたが感化を及ぼし、また神があれほどの値を払われた魂に対しても責任があるのである。もしもあなたがこのことにおいて自分の義務をなおざりにするなら、神の日にあなたの分はどのようなものとなることであろう。不忠実な者たちが、救われた人々の国民が神の都の門のうちを歩み、自分たち自身は閉め出されているのを見ると、どのように感じると思うだろうか。しかし、もしわたしたちが周りを見回し、自分たちの働きの結果として御国のうちに多くの人々を見ることができるとしたら、どう感じるであろうか。わたしたちは次のように栄光の歌を高らかに歌うことができる、「ほふられたが、ふたたび生きられた小羊こそは、ふさわしい、ふさわしい」。心が清くなければ、だれも都に入ることはない。…

わたしたち一人ひとりにとって最大の戦いは、自己を克服すること、自己を神の律法への従順へ至らせることである。これはわたしたちの働きである。それをしているだろうか。わたしたちは自分たちの感化によって他の人々を救うために働いているであろうか。…真理はあなたの心の中に焼き付けられ、それによって黙っていることができず、口にしないではいられない。あなたはあなたに耳を傾けるすべての人に真理を擁護しなければならない。



現代ほど、厳粛で重要なときはかつてなかつた。…教会の信徒たちは特に自分たちができるここと、しなければならないことの50分の1もしていらない。…

サタンは神の民を互いに分裂させ、分離させるために働くであろう。そして彼がこの主の働きをしている間、あなたがたのうちだれ一人として彼を助けているところを見いだされることがないように気をつけなさい。わたしたちは自分たちの心の冷たさを捨て去り、愛と優しい同情、真の礼儀、そして優しい精神がわたしたちのただ中にもたらされるようにしたいのである。ここで、わたしたちは待ち時間、すなわち神の準備の日の中にいる。ここで、この世界で、わたしたちはまもなくわたしたちに臨もうとしているこれらの大いなる試練のためにふさわしいものとならなければならぬ。それでいながら、わたしたちのうちのある者は、働きをなし遂げるためにわたしたちの前に千年期がそっくりそのままあるかのように行動している。しかし、聖句は次のように述べている、「目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」。そしてキリストはご自分の弟子たちに次のように言われた、わたしはあなたがたに言う、「気をつけて、目をさましていなさい」、主人がしもべたちと精算するために来るとき、あなたがたが勝利者のために備えられている命の冠をこのお方から受け、このお方と共に、その御国で喜ぶことができるよう。<sup>8</sup>



#### 引用

<sup>1</sup>初代文集 p. 139,140

<sup>2</sup>同上 p. 142,143

<sup>3</sup>同上 p. 221–224

<sup>4</sup>同上 p. 224, 225

<sup>5</sup>同上 p. 149,150

<sup>6</sup>各時代の大争闘下巻 p. 400–402

<sup>7</sup>セレクテッド・メッセージ 1巻 p. 337

<sup>8</sup>レビュー・アンド・ハルト 1885年8月18日

# 幾世紀分の差し迫った危機

エドガー・ラモス著 — ボリビア

「ああ、その日はわざわいだ。主の日は近く、全能者からの滅びのようになるからである」（ヨエル1:15）。

「わたしは有るという偉大な神が、み言葉の中にお与えになった預言は、永遠の過去から永遠の未来に至るまでの諸事件を1つ1つつなぎ合わせて、われわれが今日、時代の推移の中のどこに位するかを告げ、また将来何が起こるかを示しているのである。預言が、起こると予告したことはすべて、今まで歴史のページをさかのぼることができるのであるから、これから起こることもすべて、その順序どおりに成就するものと確信してよいのである。」<sup>1</sup>

## 弟子たちがキリストにその来臨について尋ねる

エルサレムの堂々とした宮を指しながら、イエスは次のような日が訪れる事を宣言されました。

「よく言っておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」（マタイ24:2）。

「キリストのことばは多くの人々が聞いているところで語られた。しかしイエスが1人になられて、オリブ山にすわっておられると、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレがみもとにやってきて、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」と言った（マタイ24:3）。イエスは弟子たちに答えるにあたって、エルサレムの滅亡とご自分がおいでになる大いなる日とを別々にとりあげられなかった。主はこの2つの出来事をいっしょにまとめて描写された。イエスがご自分のごらんになった通りに未来の諸事件を弟子たちに示されたら、彼らはその光景に耐えることができなかつたであろう。彼らに対する思いやりから、主は2つの大きな危機をまとめて描写し、その意味を弟子たちが自分で学ぶようにされた。」<sup>2</sup>

## イエスの預言は成就しつつある

「今日、時のしるしは、われわれが重大で厳肅な事件の門口に立っていることを告げている。われわれの世界のす

べてのものは動搖している。再臨に先立って起こる出来事に関する救い主の預言が、われわれの眼前で成就している。『また、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。……民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう』（マタイ24:6,7）。現代はすべての生きている者にとって、圧倒的に興味深い時である。」<sup>3</sup>

## にせ預言者

キリストが告知されたエルサレムの滅亡のしるしの一つがこれです。「また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう」（マタイ24:11）。

「にせ預言者たちが起って、民をあざむき、多数の者を荒野へ連れて行った。魔術士たちと占い師たちは奇跡を行う力があると言って、民を引きよせ、山の淋しいところへ連れて行った。しかしこの預言は、末の世のためにも語られたのである。このしるしは再臨のしるしとして与えられている」<sup>4</sup>

「しかし、御靈は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす靈と惡靈の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう。」（テモテ第一4:1）。

毎日、確かな預言の言葉を信じる信仰が減じているということ、そしてその代わりに迷信や惡魔的な占いが多くの人々、しかも皮肉なことに数多くの宗教的指導者たちをも含めて、その知性をとりこにしているという悲しい証拠が増しています。そして他の人々は神知学の神秘主義や心靈術に基づいた東洋宗教によって誤り導かれています。

「死んでも人には意識があるという教え、特に、死んだ者の靈が生きている者に仕えるためにもどつてくるという信仰は、近代心靈術（降神術）への道を備えた。」<sup>5</sup>

心靈術は今日名目的なキリスト教と混合され、奇跡や偽りの不思議を働いています。心靈術を通して、サタンが精靈の祝福を偽造するとき、病人が癒されるように見えます。

この方法によって、心霊術、カトリック、背教したプロテスタントは、ますます共に働き、ちょうど啓示者ヨハネが次のように描写したときのようになっています。「また見ると、龍の口から、獸の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた靈が出てきた」（黙示録16:13）。預言的な言葉はこのようにして、わたしたちの目の前で成就しています。

「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから」（コリスト第二11:14）。

### 天地におけるしるし

イエスは次のように予告なさいました、「また日と月と星とに、しるしが現れるであろう。そして、地上では、諸国民が悩み」（ルカ21:25）。マタイ24:29；マルコ13:24-26；黙示録6:12-17もご参照下さい。

「またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう」（マタイ24:7）。

「その（それらの）日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ」（マルコ13:24）。

「それらの日」とは何を意味するでしょうか。1260年という法王制の預言は、西暦538年から1798年まで続きました。患難は、1798年の少なくとも25年前に終わりました。その頃、次のしるしが、預言の成就として起こりました。<sup>6</sup>

大地震 1755年11月1日

日と月におけるしるし 1780年5月19日

星におけるしるし 1833年11月13日

「そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」（マタイ24:33）。

### さらに大きな危機が近づいている

「現代は、すべての生きている人にとって圧倒的な関心の時である。為政者も議員も、信任と権威の地位を占めている人々も、あらゆる階級の思考力のある男女は、自分たちの注意をわたしたちの周囲で起こっている出来事にしっかりと留めてきた。彼らは国家間に存在する関係を見守っている。彼らは地上のあらゆる要素をとらえている激しさを観察し、何か重大で決定的なことが起ころうとしていること－世が驚くべき危機の際にいることを認識している。」<sup>7</sup>

「まもなく、嘆かわしい悩み－イエスが来られるまで止むことのない悩み－が国家間で生じる。」<sup>8</sup>

### 死すべき運命と飢え

「危険な時がわたしたちの前にある。全世界が困惑と苦悩に巻き込まれ、あらゆる種類の病気が人類家族に臨み、健康の法則に関して今のような無知が蔓延する結果、大きな苦しみが生じ、多くの救われたはずの命が失われる。」<sup>9</sup>

「苦しむ人々、助けを必要とする人々が、わたしたちの信仰を持つ人々の間ばかりでなく、多くは真理を知らない人々の間に存在するであろう。」<sup>10</sup>

「この世界は広いラザロの家（注・貧しい病人の収容所）のようなもので、われわれはその悲惨な光景を心に思うことすら苦痛である。その現実の姿をみつめるとき、重荷はあまりに大きいであろう。しかし神はそのすべてを感じておられるのである。神は、罪とその結果を滅ぼすために、最愛のひとり子をあたえ、み子との協力によってこの悲惨な光景を終わらせる能力をわれわれにお与えになっている。『そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである』（マタイ24:14）。」<sup>11</sup>

キリスト教世界はエホバの律法に軽蔑を示してきた。そして主は、ご自分がすると宣言してこられた通りになさるであろう。すなわち、このお方はご自分の祝福を地上から引き上げ、ご自分の律法に反逆し、他の人々にも同じことをするようにと教え、強制している人々からご自分の保護の見守りを取り除かれるであろう。神が特に守っておられないすべての人々を、サタンが支配するようになる。彼はある人々に恩寵を施し繁栄させ、ますます自分自身の計画を進めようとする。そして彼は他の人々には悩みをもたらし、彼らを苦しめているのが神であると信じるように導く。

人の子らに対して、彼らのあらゆる病気を癒すことのできる偉大な医者として現れるかたわら、彼は人口の多い諸都市が破滅と荒廃へと減じるまで、病気や災害をもたらすであろう。今でさえ、彼は働いている。海陸の自己や災難、大災害、激しい竜巻や恐ろしい雹の嵐、暴風雨、洪水、つむじ風、津波、地震、あらゆる場所で幾千ものかたちで、サタンは自分の力を行使している。彼は実った収穫を一掃する。そして、飢饉と苦難が続く。彼は空気に死に至る病毒を与え、幾千もの人々が疫病で滅びる。これらの訪れはますます頻繁に悲惨になっていく。破壊が人にも獸にも及ぶ。…

ある人々はこれらの不思議を神からのものとして受けよう誘惑されるであろう。病人がわたしたちの目の前で癒されるであろう。奇跡がわたしたちの見ている前で行われる。わたしたちはサタンの偽りの不思議がもっと完全に現されるときにわたしたちを待ち構えている試練に対して準備ができているであろうか。多くの人々はわなにかけられ、捕らえられるのではないだろうか。率直な神の規則と戒めから離れ、寓話に注意を払うことによって、多くの人々の思いがこれらの偽りの不思議を受け入れる準備をしている。わたしたちは今、自らまもなく携わらなければならない戦いのために武具を固めるよう努めなければならない。祈りをもって研究し、実際的に当てはめてきた神のみ言葉を信じる信仰が、サタンの力から守るわたしたちの盾となり、キリストの血を通してわたしたちを勝利者として救出するであろう。」<sup>12</sup>

## 暴力の時代

「時に世は神の前に乱れて、暴虐が地に満ちた。神が地を見られると、それは乱れていた。すべての人が地の上でその道を乱したからである」（創世記6:11, 12）。

「ノアの時代の圧倒的大多数の者は真理に反対し、偽りの組織に魅了されていた。地は暴力で満たされた。戦争、犯罪、殺人がその時代の秩序であった。キリスト再臨の直前も、ちょうどそのようになるであろう。」<sup>13</sup>

「わたしたちが聞く殺人、強盗の恐ろしい報告、また鉄道事故、暴力行為の報告は、万物の終わりが間近であることを物語っている。今、ちょうど今こそ、わたしたちは主の再臨のために準備をする必要がある。」<sup>14</sup>

## 組合の行動

預言者ヨエルは終わりの時代の広く行き渡っている態度を予見しました。「あなたがたのすきを、つるぎに、あなたがたのかまを、やりに打ちかえよ。弱い者に『わたしは勇士である』と言わせよ」（ヨエル3:10）。

「労働組合は、自分たちの要求に応じなければ、速やかに暴力へとかきたてられる。全世界の住民が神との調和のうちにはないということがありますます明白になりつつある。

サタンの指揮の下での邪悪な労働者たちの着実な行軍を、説明できる科学的な学説はない。すべての暴徒の中で悪天使たちが働いており、人々をかきたて、暴力的な行為を犯させている。」<sup>15</sup>

「世界が始まって以来、かつてなかったような悩みの時をこの地上にもたらす代理者の一つが商業組合となるであろう。」<sup>16</sup>

## 地震と洪水

「火災に、洪水に、地震に、大いなる深淵の猛威に、海難や陸難に、神の御靈がいつまでも人と争うことはないという警告が与えられている。」<sup>17</sup>

21世紀は大いに壊滅的な地震が顕著でした。806,000を超える人々が2000年以降の地震によって命を失いました。実に、預言の靈は次のように説明しています、「今、堅固な地の上にいながら、次の瞬間には地がわたしたちの足の下で持ちあがるかもしれない時が来た。地震が思ってもみなかつたところに起こるであろう。」<sup>18</sup>

## 自然におけるしるし

「地は悲しみ、衰え、世はしおれ、衰え、天も地と共にしおれはてる。地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ」（イザヤ24:4, 5）。

「サタンは大気の中で働いている。彼は大気を毒しており、わたしたちはここで自分たちの命—わたしたちの現代と永遠の命—を神に依存している。そして、わたしたちがいる立場において、はっきりと目覚め、完全に神に注意を向け、完全に改心し、完全に神に献身する必要がある。しかし、わたしたちは麻痺したかのように座っているように見える。天の神よ、わたしたちを起したまえ！」<sup>19</sup>

「神は闇の主権者たちが毒氣をもって、空気、すなわち命と栄養の源の一つを損なうという死の働きを進めることを抑制してこられなかった。植物界に影響するだけでなく、人も疫病に苦しんでいる。…

これらのことは、神の怒りの杯が地に降り注がれるしづくの結果である。そしてそれは近い将来どうなるかということをかすかにあらわすものにすぎない。」<sup>20</sup>

## 道徳的な疫病

この書き物の時点で、ピュー・リサーチセンター（アメリカの世論調査機関）によりますと、30を越える国家で同性の結婚を行い、4つ以上の国でそのような結婚を認めるということです。創世記18章で神が当時の邪悪な諸都市の住

民の命を救って下さるようにと願ったアブラハムの嘆願を覚えてください。

「あやしむほど原則を棄て、道徳の標準が下げられてい。洪水や火によるソドムの破滅において神の裁きを地に注ぎ出す原因となった罪が急速に増加している。わたしたちは終わりに近づいている。神は人類の強情に長く耐えてこられたが、彼らの刑罰は確実であって少しも減じることはない。世の光だと公言する人々はあらゆる悪から離れなさい。」<sup>21</sup>

### 神の恵みの終わりを告げる最後のしるし

「〔第二の獣は〕その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた」（黙示録13:15）。

「無限の神は、今もなお誤ることのない正確さをもって諸国の記録をとっておられる。神の憐れみが差しのべられて、悔い改めの招きが与えられている間、この帳簿は開かれている。しかし、数字が神のお定めになった一定の数に達する時に、神の怒りのわざが始まる。帳簿は閉じられる。神の忍耐は終わる。もはや、憐れみの声は彼らのために訴えなくなるのである。」<sup>22</sup>

「彼女の罪は積り積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」（黙示録18:5）。これはいつでしょうか。

「神は諸国家の記録をとっておられる。天の書物における数値は彼らに対して膨れ上がっている。そして週の第一日目の違反は刑罰にあうことが法律となるとき、彼らの杯が満ちるのである。」<sup>23</sup>

### 来たるべき出来事は主の御手のうちにある

「世界に統治者がおられないことはない。来たるべきプログラムは主の御手のうちにある。天の大君が諸国家の運命を持っておられ、同様に教会の関心事もこのお方ご自身が責任を持っておられる。」<sup>24</sup>

### 結論

わが愛する兄弟の皆さん、しるしの成就を通して、神がこれらの災害が起こることを許して来られたのには目的があります。それらは男女に反省と悔い改めを呼び求めるこのお方の手段の一つです。

もう一年が閉じようとしています。これらの裁きがわたしたち神の民に自分たちの道を考えさせるべきではないでしょうか。

「終わりは近く恩恵期間は閉じようとしている。ああ、神を見いだすことができるよう、このお方を求めるようではないか。このお方が近くおられる間に、呼び求めよう！預言者は次のように言っている、『すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めるよ。正義を求めるよ。謙遜を求めるよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう』（ゼパニヤ2:3）。」<sup>25</sup>

わたしたちが悔い改めとわたしたちの救い主イエス・キリストへの告白の真面目な経験ができますようにといふのが、わたしたちの祈りです。アーメン

### 引用

<sup>1</sup> 国と指導者下巻p. 144.

<sup>2</sup> 各時代の希望下巻p. 92.

<sup>3</sup> 国と指導者下巻p. 144.

<sup>4</sup> 各時代の希望下巻p. 98.

<sup>5</sup> 各時代の大争闘下巻p. 304.

<sup>6</sup> (各時代の大争闘上巻参照p. 391-396, 下巻22, 23)

<sup>8</sup> 主は来られるp. 174.

<sup>9</sup> 同上p. 185.

<sup>10</sup> 同上

<sup>11</sup> 教育, p. 312.

<sup>12</sup> 健康に関する勧告p. 460, 461.

<sup>13</sup> SDAバイブル・コンタリ[E・G・ホイト・コメント]1巻 p. 1090.

<sup>14</sup> 終わりの時代の出来事p. 23.

<sup>15</sup> 上を仰いでp. 334.

<sup>16</sup> 主は来られるp. 182.

<sup>17</sup> 上を仰いでp. 340.

<sup>18</sup> 牧師への証p. 421.

<sup>19</sup> セレクテド・メッセージ2巻p. 52.

<sup>20</sup> 同上3巻p. 391.

<sup>21</sup> 教会への証5巻 p. 601.

<sup>22</sup> 各時代の希望上巻 p. 331.

<sup>23</sup> SDAバイブル・コンタリ[E・G・ホイト・コメント]7巻 p. 910.

<sup>24</sup> 教会への証5巻p. 753.

<sup>25</sup> 主は来られるp. 37.

# 最後の憐れみのメッセージ

アロンソ・アマヤ著 — ホンジュラス

## 序論

墮落した人類への神の憐れみのメッセージは各時代に提供されてきました。宇宙の統治者は自己否定の男女を起こし、すべての世代において彼らを祝福として用い、「愛のひも」をもって求めてこられました（ホセア11:4）。神の大きいなる憐れみのうちに、このお方は単純なメッセージをもって三人の魂を救うために特別な使命をもたせて御使たちを遣わされました、「のがれて、自分の命を救いなさい」（創世記19:17）。そして、わたしたちの愛する救い主はまた極端でありながら、価値のあるひとりの人を救うために、驚く訴えをもって来られました、「なぜわたしを迫害するのか」（使徒行伝9:4）。

同様に、わたしたちの世代でも、この憐れみのメッセージは過去に勝るとも劣らず重要です。わたしたちは神の憐れみが表される最後の時がわたしたちに表されているがゆえに、最後の世代の触れ役（町議会などからの広報を行う係。18世紀にはベルを鳴らして連絡事項を触れ回った）です。

## 6,000年の年表

キリストとサタンの間の大争闘は、今や6000年近く行われてきましたが、まもなく終わろうとしています。サタンは人類のためのキリストの働きを妨害し、彼らをそのかせにつなぐためにその努力を倍加しています。彼の目的は救い主の仲保の働きが終わり、もはや罪の犠牲がなくなる時まで、民を闇と悔い改めない心の中に沈めることです。

「約6000年近くも続けられてきたキリストとサタンとの間の大争闘は、まもなく終わる。」<sup>1</sup> 「6000年の間、信仰はキリストの上に築かれてきた。6000年の間、サタンの怒りという洪水と嵐がわれらの救いの岩なるキリストを襲った。だがそれは動かされることなく立っている。」<sup>2</sup>

神の靈感はこうしてわたしたちの星とそのドラマのうちに明らかにされる行為のための時間は—好ましかろうと破滅のうちにであろうと—およそ6000年にわたることを明らかにしています。

時に関してこのはっきりとした証拠をもって、数々の出来

事が大争闘の中で決定されてきました。キリストを信じる信仰の建物、振るわれることのない岩は、すべての嵐に直面する際の唯一の救いの源であり続けています。

## 洪水前の世界のための恵み

**1. 恩恵期間.** 地上歴史の初期の時代、まだ黎明期にあったときに、「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた」（創世記6:5）。

とこしえのお方が次のように宣言されました、「わたしの靈はながく人の中にとどまらない。彼は肉にすぎないのだ。しかし、彼の年は百二十年であろう」（3節）。

**2. 破壊を予告する.** 全能者は人と獸と這うものと鳥の破滅を警告されました。「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獸も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを造ったことを悔いる」と言わされた。」（7節）。

**3. 破壊の手段.** 破壊の手段は全世界的な洪水となるのでした。「わたしは地の上に洪水を送って、命の息のある肉なるものを、みな天の下から滅ぼし去る。地にあるものは、みな死に絶えるであろう」（17節）。

**4. 解決法.** 解決法は箱舟に入ることでした。「主はノアに言われた、「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである」（創世記7:1）。

この洪水前の世代のために、最後の憐れみのメッセージが残っている期間を述べていることに注意して下さい。それはまた滅ぼされることになる被造物を決定し、用いられることがある破壊の手段—そして最終的に民が救われることのできる道を特定していました。ですから、洪水前の世代が、神の側で彼らに与える情報が何か足りなかったり、恵みを提供されなかったりして滅ぼされたのではないことは、はっきりしています。そうではなく、神はその大きいなる憐れみのうちに彼らの救い全体を手の届くところへおいて下さいました。しかし、彼らはそれを拒んだのです。神のみ言葉が洪水前の人々を次のように言及したのはこのためです。「これらの靈というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられた

のに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった」（ペテロ第一3:20）。神の忍耐は箱舟が準備されつつある間はとどまっていました。そしてだれでも望む者は自由に入ることができたのです。しかし、悲しいことに、莫大な大部分の人々は自分たちに信仰がないために最後の招きを拒み、こうして彼ら自身の不従順がその運命を封印したのでした。

## ソドムとゴモラのための最後の夜

### 1. 恩恵期間.

平原の諸都市に定住した人々は富裕に繁栄してきました。神は、その都市に住む人々を滅ぼすためではなく、救うために神の御使を遣わされたにもかかわらず、不幸なことに、その都市にパンがふんだんにあることは、利己的な怠惰と罪をもたらしました。その使者たちはその夜、熱心に訴えました。彼らは自分たちに課された神聖な目的を説明しました。「ソドムとゴモラの叫びは大きく、またその罪は非常に重いので」（創世記18:20）と主は言われました。その重大な罪が、彼らの滅びの原因でした。

「そのふたりのみ使は夕暮にソドムに着いた。そのときロトはソドムの門にすわっていた。ロトは彼らを見て、立って迎え、地に伏して、言った、『わが主よ、どうぞしもべの家に立寄つて足を洗い、お泊まりください。そして朝早く起きてお立ちください』。彼らは言った、『いや、われわれは広場で夜を過ごします』。」（創世記19:1, 2）。その時が、その都市にとって最後の夜でした。

**2. 破壊を予告する.** 御使たちは言いました、「ふたりはロトに言った、『ほかにあなたの身内の者がここにありますか。あなたのむこ、むすこ、娘およびこの町にあるあなたの身内の者を、皆ここから連れ出しなさい。われわれがこの所を滅ぼそうとしているからです。人々の叫びが主の前に大きくなり、主はこの所を滅ぼすために、われわれをつかわされたのです』。」（12, 13節）。

**3. 破壊の手段.**「主は硫黄と火とを主の所すなわち天からソドムとゴモラの上に降らせて」（24節）。

**4. 解決法.** ロトの家族は、慈悲を受けたため、御使により導かれ、次のように警告を受けました。「彼らを外に連れ出した時そのひとりは言った、『のがれて、自分の命を救いなさい。うしろをふりかえって見てはならない。低地にはどこにも立ち止まつてはならない。山にのがれなさい。そうしなけ

れば、あなたは滅びます』。」（17節）

神は、実現されなければならない事柄について言い忘れるではなく、必要な事を全て伝えられます。神は、天から、特定の対象物に対してのみ火を発せられました。ゾアルも同じく、平野の中に存在していましたが、神は、ロトの願いを受け入れ、ゾアルに対しては制裁を加えませんでした。ゾアルという小さい都市、およびロトとその娘たちを救われたというこの光景により、わたしたちは神の崇高な愛と恵みを認識することができます。

創世記に書かれている以上の説明は過去の事柄に関するものです。わたしたちは以下、現在および未来の事柄について分析します。

## この最後の時代にわたしたちに与えられている機会

### 1. 恩恵期間.

この惑星に与えられている残りの時間は限られています。主イエス・キリストは間もなく、以下の厳粛な宣言を発せられます。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚したことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」。「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」（黙示録22:11, 12）。このような場合においては、あらかじめ定められている時間が、わたしたち自身の行いによってある程度変更されることがあります。

「キリストの再臨がこのように遅れることは、神の意思に合致するものではない。神の民、イスラエル人が40年の間、荒野をさまようことは神がご計画されたわけではなかった。神のみ約束は、彼らを直接カナンの地へと導き、そこで聖なる健全な幸せな場所を築くことであった。しかし、彼らは『不信仰のゆえ』（ヘブル3:19）、その地に入ることができなかつた。彼らの心は、つぶやき、反逆、憎しみで満たされたため、神は彼らとの約束を実現することができなかつた。」<sup>3</sup>

「わたしたちは、イスラエルの子どもたちと同様、わたしたちの不服従によって、この世にしばらく残ることになるかもしれない。しかし、キリストの民たちは、キリストのために、自分自身の誤った行動による結果を神の責任にするようなことをして、罪の上に罪を重ねるべきではない。」<sup>4</sup>

「イエスは、世界をあわれんで、彼の再臨を延ばしておられる。それは、罪人に警告を聞く機会を与え、神の怒りが注がれる前に、主のうちに避難させるためである。」<sup>5</sup>

## 2. 破壊を予告する。

この最後の時代においては、靈的な危機は、獸とその像を拝むことです。黙示録14章の第三天使は次のように警告しています。「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獸とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獸とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない』。」（黙示録14:9-11）。

**3. 破壊を予告する。** 地球の歴史における最後の場面を目撃した預言者ヨハネは、次のように記録しています。「それから、大きな声が聖所から出て、七人の御使にむかい、『さあ行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に傾けよ』と言うのを聞いた」（黙示録16:1）。7つの災いの後、永遠のお方は次のように宣言されます。「全地は荒れ地となる。しかしわたしはことごとくはこれを滅ぼさない」（エレミヤ4:27）。預言者は、神の敵たちについて、次のような光景を見せられました。「彼らは地上の広い所に上ってきて、聖徒たちの陣営と愛されていた都とを包囲した。すると、天から火が下ってきて、彼らを焼き尽した。そして、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。そこには、獸もにせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである」（黙示録20:9, 10）。そして、「見よ、彼らはわらのようになって、火に焼き滅ぼされ、自分の身を炎の勢いから、救い出すことができない。…」（イザヤ47:14）。

**4. 解決法。** 常に小羊の後について行くべきです。「彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。…ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」（黙示録14:4, 5, 12）。

## 1888年、御国の入り口で

1888年のセブンスデー・アドベンチストの総会において「主はその大いなる憐れみのうちに、エルダー・ワゴナーとジョ

ーンズを通じて、最も貴重なメッセージを主の民に送られた。そのメッセージは、世の前に高く掲げられた救い主、すなわち全世界の罪のための犠牲をより明確に示すものであった。それは、わたしたちの保証人を信じる信仰を通じての義を提示するものであった。それは、キリストの義、すなわち神の全ての戒めに従うことによる明示された義を受け入れるよう人々を招いた。多くの人々は、イエスを見失っていた。彼らは、このお方の神性、このお方の功績、そして人類の家族に対して変わることのないこのお方の愛に自分の目を向ける必要があった」。<sup>6</sup>

ラオデキヤの教会の天使に対して与えられた最後の憐れみのメッセージの効果は、どのようなものであったでしょうか？そのメッセージに対する反応には、2つの種類がありました。バトルクリークにおいて、強い反対が発生しました。しかし、主の御使は、そのメッセージを教会に伝えるにあたり、ジョンズとワゴナーを助けました。

エレン・G・ホワイト姉妹は、次のように証言しました。「わたしは、指摘と批判の対象になった。しかし、わたしの兄弟のうち、わたしのところに来て質問をしたり、説明を求める人は一人もなかった。わたしたちは、牧師たちが一つの部屋に集まり、わたしたちの祈りを一つのものにすることを願っていたが、そのようなことは、2、3度しか実現しなかった。非常に強く固い偏見を解消するための機会が見当たらず、わたしやわたしの息子、E.J.ワゴナー、A.T.ジョンズに関する誤解を取り除くための機会がなかった」。<sup>7</sup>

しかし、彼女はより積極的な体験について告白しました。「今回のように、再生の働きが完全に徹底したかたちで実現され、かつ、不適切な興奮を伴わずに実現されたことを、わたしは、いまだかつて見たことがない。. . .

人々に対して真理が明示されることにより、自分が律法の下において違反者であることを自覚したと告白した人が多数、生じた。彼らは自分自身の義に信頼していました。しかし、神によって唯一受け入れられるキリストの義と比べると、彼ら自身の義は汚れた衣服にすぎないことを彼らは認識した。彼らは、公然とした違反者ではなかったが、自分の心が堕落し、失われていることに気づいた。彼らは、天父ではなく、他の神々を自分たちの神としていた。彼らは、罪から離れようとしていたが、その際、自分自身の力に信頼していた。わたしたちは、現在の状態のままでイエスのところへ行くべきであり、そこでわたしたちに罪を告白し、わたし

たちの無力な魂を愛情深い救い主の上に投げ出す必要がある」。<sup>8</sup>

### 再改心と再バプテスマは、全ての人のための特権

「主は断固とした改革を求めておられる。そして、彼の魂が再度改心した時には、再度バプテスマを受けさせなさい。彼に神との契約を新たなものにさせなさい。そうすれば神は彼との契約を新たなものにしてくださる。．．．再改心は、教員の間でなされるべきである。こうして神の証人として、彼らが魂を聖化する真理の権威ある力に対して証ができるためである。」<sup>9</sup>

### 働き人たちにおけるリバイバル

「み事業における働き人々は、今、完全に目覚める必要がある。多くの人々が新たに改心し、再バプテスマを受ける必要がある。イスラエルの群衆が飲んだ靈の岩の水を飲むことを彼らが学び、彼らが日々、天のマナを受け取るようになれば、彼らの経験は劇的に変化するであろう！わたしたちが食べる食物がわたしたちの肉体的な必要を満たすものであるように、キリストはわたしたちの靈的な必要を満たすものである。」<sup>10</sup>

### 最上位を求める者は再改心が必要である

「わたしは、わたしたちの指導者たち、牧師たち、特に医師たちに語る。あなたたちが、自分の心の中で誇りを保持しつづけようとする間、あなたは力を得ることができない。長い間、間違った精神、すなわち誇りの精神、他者に対する優越への願望を心に抱いてきた。そのような状態の人々は、サタンに仕え、神を辱めてきた。主は、断固とした改革を求めておられる。そして、魂が真に再改心したならば、彼は再バプテスマを受けるべきである。彼は神との契約を新しいものとすべきであり、それにより神は彼との契約を新しいものにされます。」<sup>11</sup>

### 悔い改めてわたしたちはじめのわざをすること

「牧師たちの学校にいた人々の多くは、キリストのうちに宿らないという自分たちの過ちを認めてこなかったであろうか。悔い改めてはじめのわざをするという特権を彼らは有することができないのであろうか。だれがこの悔い改め、告白、バプテスマの働きを非難するであろうか。もしだれでも良心的

に自分たちのなすべき義務が、罪について悔い改め、それらを告白し、バプテスマを受けることであると感じるならば、これが彼らのしなければならないはじめのわざではないだろうか。」<sup>12</sup>

### 粗暴な牧師や背信の教会は再バプテスマの必要がある

「あまりにも多くの粗暴さやクリスチヤンの礼儀の欠如が、公式の地位に立つ人々の生活に入り込んでいるため、わたしの心は大いに病み苦しんでいる。彼らが神の子供たち、すなわち神のひとり子の血によって買われた者の取り扱いに、あまりにもキリストの優しさを示すことが見られないため、わたしは涙を流すしかない。…

今日の教会が必要としているものは、聖靈によるバプテスマである。再改心を必要としている堕落した教会と堕落した牧師たちがいる。彼らは聖靈のバプテスマによる和らげて征服する感化を必要としている。それによって新しい人生において立ち上がり、永遠のための徹底的な働きをなすことができるためである。わたしは無宗教と自己満足が大切にされてきたことを見た。また、次の言葉が語られるのを聞いた、『心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう』。再バプテスマを必要としている人々が沢山いる。しかし、彼らが罪に対して死に、利己心と自己称揚を癒されるまでは決して水の中に沈められるべきではない。すなわち彼らが神に対して新しい生活を送るために水から上がることができるまでは。」<sup>13</sup>

### わたしたちはまもなく始まる世界的な出来事のために準備をしているであろうか？

わたしたちの教会が存在していない地域が、地上において沢山存在していることを認識したとしても、わたしたちは絶望を感じる必要はありません。わたしたちの神はそのような現実をよくご存じです。そして、このお方はわたしたちがクリスチヤンの体験において勝利をおさめ、後の雨のための準備ができるようになることを望んでおられます。

そのような準備ができたとき、わたしたちは、神の聖なるみ言葉である聖書、および預言の靈によって約束されたかたちで、この世における役割を果たすことができるようになります。（イザヤ66:18-21参照）。

「キリストの義の武具を身に着けて、教会は最後の戦

いに入るべきである。『月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか』（雅歌6:10）。その教会は、地上のあらゆる場所を訪れ、勝利のうえに勝利を重ねる。

「教会と悪の勢力との闘いの最も暗黒な時は、教会が最後に救出される日の直前である。しかし、神に信頼する者は誰1人として恐れる必要はない。「あらぶる者の及ぼす害は、石がきを打つあらしのごとく」であっても、神は、神の教会にとって、「あらしをさける避け所とな」られる（イザヤ25:4）。」<sup>14</sup>

### 結論

大切にされ愛されている神の民たちは、この地上において、様々な場所に散らばっています。わたしたちのための神の憐れみの時代は終わりに近づいており、また神の民としてのわたしたちの準備期間はほとんど残されていません。今の状況は緊急事態です。わたしたちは、自分たちの知人や愛するすべての人々と共に、神のみ働きにおけるあらゆる場面で行動する必要があります。またわたしたちは、この偉大な最後のメッセージを支えるメンバーまた支持者として、神聖な経路を通じて継続的に働きを行う必要があります。小羊の行くところへはどこへでもついて行き、わたしは、このお方の愛の御腕の中に子どものように飛び込むことを躊躇せず、また父親を愛する子がその親に従う幼子のように、このお方のすべての言葉に従います。しかし、小羊の行くところへはどこへでもついて行くということは、何年も受動的に同じ道にとどまるという意味ではありません。なぜなら、み言葉には次のように書かれているからです。「人が見て自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある」（箴言14:12）。小羊の行くところへはどこへでもついていくということは、上に（垂直的に）進むことを意味しています。なぜなら、「知恵ある人の道は上って命に至る、こうして、その人は下にある陰府を離れる」とあるからです（箴言15:24）。神がわたしたちに託してくださったこの最後の憐れみのメッセージは、わたしたちが水平の地上にとどまることを許容するものではありません。神は、エノクに対して行ったのと同様に、わたしたちを高くしてくださいます。それにより、わたしたちは間もなく、天とみ父に近づき、この地上から離れていくのです。

### 引用

- <sup>1</sup> 各時代の大争闘下巻 p. 260;
- <sup>2</sup> 各時代の希望中巻, p. 181.
- <sup>3</sup> 伝道, p. 696.
- <sup>4</sup> 同上
- <sup>5</sup> 各時代の大争闘下巻 p. 183.
- <sup>6</sup> 牧師への証 p. 91, 92.
- <sup>7</sup> セレクテッド・メッセージ 3, p. 173.
- <sup>8</sup> レビュー・アンド・ヘラルド March 5, 1889.
- <sup>9</sup> 伝道 p. 375.
- <sup>10</sup> 原稿リース 7, p. 273.
- <sup>11</sup> 同上 p. 262.
- <sup>12</sup> 同上 p. 261.
- <sup>13</sup> 同上 p. 266, 267.
- <sup>14</sup> 国と指導者下巻 p. 326.

### 12月11日「預言と約束」

### 引用

- <sup>1</sup> レビュー・アンド・ヘラルド 1897年3月2日
- <sup>2</sup> 患難から栄光へ上巻, p. 51.
- <sup>3</sup> 神の娘たち, p. 185.
- <sup>4</sup> 患難から栄光へ上巻, p. 45. [強調付加]
- <sup>5</sup> 牧師への証 p. 507.
- <sup>6</sup> 原稿リース 2巻 p. 337.

## 預言と約束

アルWIN・ヴェドハシン著 — インド

### 聖靈

聖靈とは、第三位の神格です。使徒行伝5:3, 4で、使徒ペテロは次のように述べています。「アナニヤよ、どうしてあなたは、自分の心をサタンに奪われて、聖靈を欺き、地所の代金をごまかしたのか。売らずに残しておけば、あなたのものであり、売ってしまっても、あなたの自由になったはずではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ」。ここで、アヤニヤは聖靈に対して嘘をついていますが、その聖靈は、神と呼ばれています。

### 聖靈は永遠である。

「もし、やぎや雄牛の血や雌牛の灰が、汚れた人たちの上にまきかけられて、肉体をきよめ聖別するとすれば、**永遠の聖靈**によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としないであろうか。」  
(ヘブル9:13, 14) . [強調付加]

**聖靈は、偏在しておられる。**詩篇139:7-10で、ダビデ王は、神の靈があらゆる場所におられることを明らかにしています。「わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。わたしがあけばのの翼をかけて海のはてに住んでも、あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしをささえられます。」

### 聖靈は全知であられる。

「しかし、聖書に書いてあるとおり、『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである。そして、それを神は、御靈によってわたしたちに啓示して下さったのである。御靈はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである。いったい、人間の思いは、その内にある人間の靈以外に、だれが知つていいようか。それと同じように

神の思いも、神の御靈以外には、知るものはない」(コリント第一2:9-11)。

**聖靈は全能であられる。**「御使が答えて言った、『聖靈があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう』。」(ルカ1:35)。

### 旧約聖書の時代における聖靈についての預言と約束

旧約聖書の時代においては、聖靈は、特別の目的のために神によって選ばれた一人一人の人間の中において活発に活動しました。人間が神によって課された任務を果たすことができるよう、聖靈はその人間に働きかけました。そのため、預言者たちは、自分の判断や救いのよりどころとする神聖な考え方について証言をするにあたり、「主はこのように述べられる」という言葉を用いています。

創世記20:7において、モーセはアブラハムが預言者であったと述べています。預言者とは、聖靈による感化を受けた人です。預言者は、聖靈の代弁者です。すなわち、次のように書かれています。「人々が聖靈に感じ、神によって語ったものだからである」(ペテロ第二1:21)。

人類の歴史や救いにおいて聖靈が常に働いていたということは明らかです。聖靈は、創造における全ての過程において活発的です

。なぜなら、詩篇104:30には、次のように書かれているからです。「あなたが靈を送られると、彼らは造られる。あなたは地のおもてを新たにされる」。

創世記1:2においては、聖靈が水の上をおおっていたと書かれています。

人類が罪を犯したことにより、人類と神との間の親密な関係は途絶えました。しかし、憐れみのうちに、神の御靈は、墮落後においても、人間との間で一定の関係を維持されました。その点について、創世記6:3は次のように記載しています。「そこで主は言われた、『わたしの靈はながく人の中にとどまらない。彼は肉にすぎないのである。しかし、彼の年は百二十年であろう』。」

ヨセフとダニエルは、祈りと信仰の人でした。彼らは、自分たちの人生を神に捧げました。創世記41:37-40において、ヨセフが夢の解釈をパロに伝えたことが書かれていますが、その君主は、ヨセフの中に聖靈が存在していることを明確に認識しました。ヨセフと同等の理解力を有する人、同じくらい賢明な人は他にはいませんでした。ダニエルがネブカデネザル王に対して夢の解き明かしを伝えることができたとき、その王は、聖なる神の靈がダニエルの中にいることを知っていると述べました（ダニエル4:9）。ヨセフとダニエルは、彼らの支配者たちが見た夢を解き明かしをした後、外国の地において繁栄しました。そして両者とも彼らの神に対する忠実さによって、高い地位を占めることになりました。

詩篇51:11において、ダビデ王は神に対し、「あなたの聖なる靈をわたしから取らないでください」と嘆願しました。このことから、彼の中においてもまた、聖靈が存在していたことを知ることが出来ます。サムエル記上16:13において、預言者サムエルがダビデに油を注いだことについて書かれており、その際、ダビデの上に聖靈が降り注がれています。その油が注がれたことにより、力が与えられただけでなく、知恵と品格も与えられ、それにより彼は本当の人生を歩むことが出来るようになりました。

サウル王は預言者サムエルによって油を注がれました。サムエル記上10:11において、サウルが預言者の子たちの中にいたとき、神の靈を求めておらず、またその靈を受ける何の準備もできていませんでしたが、預言の靈がサウルに注がれました。それは、奉仕するため、預言するため、勝利するため、支配するために与えられた神の御靈でした。

サムソンは、胎の中にいたときから、聖靈で満たされていました。神は、彼の人生について目的をもっておられました。その目的とは、彼がイスラエル人に自由をもたらすということでした。士師記13:25には、主の靈がサムソンの上に注がれたということが書かれています。彼のペリシテ人に対する勝利は、次の言葉によって表現されています。「主の靈はゾラとエシタオルの間のマハネダンにおいて初めて彼を感動させた」。

預言者エリヤの奉仕が成功した原因是、彼が生来有していた性質ではなく、彼が聖靈に従ったことでした。神に対する生きた信仰をもつ人は、エリヤと同じ聖靈を受けることができます。預言者エリヤはエリヤに宿っていた靈の二つ分を受けました。エリヤの中においては、エリヤの靈と、優

しさ、憐れみ、そして優しい同情というキリストの靈が結合していました。

士師記6:33,34において、イスラエルを救う士師としてギデオンが神に選ばれたということを確認することが出来ます。彼は、ミデヤン人を救うという任務のために、聖靈による力を授かりました。

聖靈は、ネヘミヤが彼の民のために断食を行い、泣き、祈るように導きました（ネヘミヤ記1:4）。聖靈は、重大な困難の時において、ネヘミヤが神を称えるように導きました（ネヘミヤ記1:5）。聖靈は、彼が自分と自分の国民の罪を告白するように導きました（ネヘミヤ記1:6,7）。また、御靈は神や神の民たちに主のみ約束やご計画を思い出させるようネヘミヤを導きました（ネヘミヤ記1:10,11）。

ペンテコステの日において聖靈が降り注がれるという預言者ヨエルの預言は成就しました（ヨエル2:28,29）。イスラエルの子孫に対して神の靈が注がれるという約束を神が与えられたということが、イザヤ44:3-5に書かれています。イザヤ32:15-17においては、聖靈が降り注がれることの結果が、正義、義、平和であると書かれています。

エゼキエル36:26,27においては、神が「あなたがたのうち」において彼の靈を注ぐと書かれています。その靈が注がれた人は、神の戒めを守り、神の判断に従うようになると書かれています。

エゼキエル39:29においては、主である神がその靈をイスラエルにそそいたため、神がイスラエルから神の顔を隠さないということが書かれています。

ゼカリヤ12:10においては、嘆願と恵みの靈がエルサレムの住人に注がれたと書かれています。その靈を注がれた人々は自分たちが刺し通したイエスを見上げるようになり、またイエスの死について嘆くと書かれています。

## 新約聖書の時代における聖靈の預言とみ約束

新約聖書は、旧約聖書と同様、聖靈の指示により書かれたものです。

バプテスマのヨハネは、バプテスマを受ける人々をヨルダン川の中に浸しましたが、それは彼らの罪の悔い改めを象徴していました。バプテスマのヨハネは、キリストが聖靈と火によりバプテスマを授けると述べました（マタイ3:11）。

イエスは、弟子たちに対して次のように述べました。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわ

される聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう」（ヨハネ14:26）。

イエスを渴望し、イエスのところにくる人々は全て、「生ける水」である聖靈を与えられました（ヨハネ7:37-39）。「真理の御靈」がイエスの弟子たちを助け、彼らと共にいてくださることについて、イエスは弟子たちに約束をしました（ヨハネ14:16,17）。主は、弟子たちが「父が約束されたもの」（ルカ24:49,使徒行伝1:4）を受け取るまでは、エルサレムにとどまるよう弟子たちに伝えました。その時、イエスは、明らかにバプテスマのヨハネにより語られていたバプテスマについて話していました。そのバプテスマにより、弟子たちは力を授かり、また証人になりました（使徒行伝1:5,8）。聖靈がハトのようなかたちでイエスの上に降りてきたことは、聖なる油の注ぎのしるしでした（マタイ3:16,17）。イエスの上に、目に見える靈が注がれたことは、神から与えられた印であり、その印は、イエスが長い間待ち望まれていたお方であることをバプテスマのヨハネに伝えるものでした（ヨハネ1:32-34）。

聖靈によってバプテスマを受けた使徒ペテロは突然、超自然的な大胆さと権威を伴って立ち上がり、ペンテコステの日の群集に対して話しましたが、その使徒たちは、酒に酔っているのではなく、預言者ヨエルによる預言を経験していると述べました（使徒行伝2:14-17）。ペテロは、その説教において、イエスが御父から約束された聖靈が降り注がれることについて語りました（使徒行伝2:33）。聖靈の賜物は、悔い改めてバプテスマを受けた全ての人々に与えられます（使徒行伝2:38）。そのみ約束をキリストが受けて、今やキリストによって注がれたのでした（使徒行伝2:33）。

ステパノは、ユダヤの権力者たちについて、強情で心にも耳にも割礼がないものとして批判しました。なぜなら、彼らは、彼らの父祖と同様、常に聖靈を拒んだからです（使徒行伝7:51）。彼らは、イエスが地上にいる間、イエスを拒んだだけでなく、聖靈をも拒みました。

使徒パウロは、聖靈による祝福について次のように述べています。

「イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御靈を、わたしたちが信仰によって受けるためである」（ガラテヤ3:14）。

使徒ヤコブは、同僚である信仰者たちに対して、彼らが後の雨を受け取るまで耐え忍ぶように伝えています（ヤコブ5:7）。

使徒ユダは、聖なる信仰をもち、かつ聖靈によって祈るべきことを信仰者たちに助言しています（ユダ20）。

啓示者ヨハネは、イエスと聖靈との関係を保ち続けました。彼は「主の日に御靈に感じた。」（黙示録1:9-10）と書いています。

## 聖靈の役割

聖靈は、神の救いのご計画において、最初の時から永遠に至るまで非常に重要な役割を有しています。すでに述べたように、創世記1:2では、聖靈である神の御靈は、地に形がなく、むなしいときにおいて、水のおもてをおおっていました。黙示録の最後の章においては、聖靈が人類を神の救いのご計画へあざかるように招いています（黙示録22:17）。

マタイ1:20においては、主の使がヨセフのところに現れ、彼の婚約者である妻が聖靈によって身ごもったことを伝えました。

聖靈は、信仰者たちの中に住み、彼らの体が神の宮となるように導きます（コリント第一3:16）。聖靈は、わたしたちの言動によって悲しみます（エペソ4:30）。彼は、切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなしてください（ローマ8:26）。彼は、わたしたちの心を探っています（27節）。また、彼は、わたしたちに話かけてくださいます（使徒行伝13:2;16:6,7;黙示録2:7）。彼は、わたしたちにすべてのことを教え、聖書の内容について思いおこさせます（ヨハネ14:26）。

神は、聖靈を通して、自らをわたしたちに示されました。聖靈は、預言者を通して語られました。聖靈はわたしたちに光を与え、わたしたちを導いており、それによりわたしたちはみ言葉を理解することができます。

聖靈は、救いにおいて二重の役割を有しています。一つは、聖靈がわたしたちに罪の自覚をもたせることであり、もう一つは、罪について悔い改めさせることです。そのため、わたしたちは、神の義と恵みに依存しており、贖いへと導かれます。わたしたちは聖靈の力によって、肉体に対して勝利を治めることができます。

もしわたしたちが聖靈に従うならば、聖靈は、わたしたちの能力以上の力により、主のみ働きを実現させてくださいま

す（コリント第一12:3-5）。聖霊は、聖霊の意思を実現するために必要となる力をわたしたちに与えてくださいます（使徒行伝1:8）。聖霊はわたしたちの教師であり、すべての真理へと導いてくださいます（ヨハネ14:26）。彼は、楽しみと平穏を与えてくださいます（ガラテヤ5:22, 23）。彼は力を与えてくださり（エペソ3:16）、そこには信心深い生活を送るための力も含まれています（エゼキエル36:27）。彼は、わたしたちが祈ることにおいて助けてくださいます（エペソ6:18）。彼は、知恵と啓示を与えてくださいます（エペソ1:17, 18）。彼は、わたしたちを証人にしてくださいます（テモテ第一3:13）。父なる神は、聖霊を通してわたしたちに語りかけてくださいます（マタイ10:20）。

### 終わりの時代における聖霊

「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く」（イザヤ30:21）。

「初期の弟子たちがペンテコステの日の聖霊の注ぎのために準備をしたのは、罪を告白して放棄することによって、熱心に祈り、神に献身することによってであった。同じ働きが、ただ更に大きな度合で、今なされなければならない。そうであれば人間の代理人はただ祝福と求め、主がご自分に関する働きを完成してくださることを待つだけである。その働きを開始されたのは神であり、神が人間をイエス・キリストにおいて完全なものとすることにより、その働きを完了してくださる。しかし、前の雨によって象徴されている恵みをおおざりにしてはならない。与えられている光に従って生きている人々だけが、より偉大な光を受けることができるのである。」<sup>1</sup>

神のみ約束は、確実なものです。神は、人々を啓発し、多数の魂を勝ち取るという結果をもたらす聖霊を、全ての肉に注がれます（ヨエル2:28）。

「地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられる」と約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。」<sup>2</sup>

わたしたちが神の靈がなければ、わたしたちは、イエスに対して盲目になります。個人的な誇りや栄光は、探し求め人がキリストを見いだせないようにします。しかし、もし、わたしたちが悔い改め、バプテスマを受けるならば、聖霊を通して、自分の肉にまさる力を得ることができます。もし、わた

したちが神のみ言葉を受けて、心に大事にするならば、この聖霊は教会に住んでくださる来賓として役割を果たして下さり、わたしたちはクリスチヤン生活を送ることができるようになります。

「魂の上に試練が降りかかったときは、キリストの言葉を思い出しなさい。このお方が聖霊を通して見えなくてもご臨在されていることを思い出しなさい。」<sup>3</sup>

「聖霊の約束は一時代や一民族に限られたものではない。キリストは、み霊の聖なる感化は世の終わりにいたるまで、キリストに従う者の上にあると宣言なさった。ペンテコステの日から現代にいたるまで主とそのみわざに自分のすべてをささげてきた人々に、助け主が送られてきた。」<sup>4</sup>

「わたしたちは、活動的なクリスチヤンの徳を例証することにおいて日々前進しないかぎり、後の雨における聖霊の現われに気付くことはない。その聖霊がわたしたちの周囲のすべての人に降り注いだとしても、わたしたちは、それを見分けることも受けることもないのである。」<sup>5</sup>

聖霊を受けるということは、わたしたちが神の子であり、またキリストについての共同相続人であることを証拠となります（ローマ8:14-17）。わたしたちは、神のみ言葉に従い、また信仰に基づく祈りをした場合、聖霊がわたしたちを導いてくださり、わたしたちは、自分たちの生活において、聖霊に基づく果実を収穫することができるようになります。わたしたちは、靈的に成長するためには、自分たちの生活を聖霊のみ言葉、すなわち神のみ言葉に従わせる必要があります。

わたしたちは、神の預言の内容を確認し、また預言の言葉をわたしたちの生活において実現させるにあたって、活発な役割を果たす必要があります。主のみ言葉を信じることがわたしたちの生活の中に実現するかたわら、わたしたちは神のみ言葉によって希望と安定性をいただかなくてはなりません。最後に起こるべきことが実現することをわたしたちが待っている間に、わたしたちの敵が、失望の種を植えるのを許してはなりません。聖霊の完全性を約束してくださったイエスご自身が、再臨に至るまでの間、わたしたちの靈、魂、肉体を汚点のない状態に保つことがおできになります。「イエスは、真理のみ霊として、あなたの所へ来られる。み霊の思いを研究し、あなたの主に相談し、このお方の道に従いなさい」。<sup>6</sup>

引用は、17ページ

## ドラマの最後の場面

マリアン・シルブ 著ルーマニア

「今の時を生かして（償って）用いなさい。今は悪い時代なのである」（エペソ5:16）。

ギリシャ語において、「償う」とは、「買う、身代金、損失を埋め合わせる」という意味があります。わたしたちが償うことができるのは、今日と明日だけです。なぜなら、昨日は、既に過ぎ去ってしまっているからです！神がわたしたちに与えてくださったもの一時間一を、わたしたちの靈的な天職のために用いることについて責任を負っているのは、わたしたちだけです。

わたしたちが住んでいる最後の時代においては、聖なる、義の品性を形成することが、ますます難しくなってきています。数多くの悪の道や悪い考え方、神の道から焦点をはずれさせるかもしれません。

人類に残された限られた時間や、わたしたちに残された少ない時間について考える人はほとんどいません。

この時代は、悪い時代です。すなわち、わたしたちは罪深い世界に住んでいます。そこでは罪深い選択が日々、繰り返されており、そのような選択は、神によって与えられた素晴らしい賜物である時間を汚すものです。この時代が悪い時代であるため、神は、あなたがどのような生き方をするかについて、十分注意することを促しています。

アメリカの詩人であり伝記作家であるカール・サンドバーグは次のように述べています。「時間とは、あなたの人生における硬貨です。あなたが有しているのは、その硬貨だけです。その硬貨を使う目的を決める能够性があるのは、あなただけです。他の人が、あなたに代わってその硬貨を使ってしまうことがないように、注意してください。」

あなたは、どのような方法によりあなたの時間について生じた損失を償うべきでしょうか？あなたが人生における硬貨を賢く用いていることを、どのような方法によって確実にすべきでしょうか？

全ての日、全ての時間、全ての瞬間は、神への奉仕のために用いられるべきです。わたしたち自身を向上させるために、神のみ言葉を学ぶための時間を最大限、確保すべ

きです。それにより、わたしたちは、神に奉仕するためのより良い方法を知ることができます。そのことを最優先しない場合、多くの時間が無駄に費やされてしまいます。

わたしたちが既に知っているように、使徒パウロは、わたしたちの時間を最大限に活用することの重要性を説明しています。そして、そのことを実施するか否か、その実施方法は、わたしたちの判断にかかっています。そのためわたしたちは、自分たちの生き方を吟味すべきです。次のソロモン王の言葉を考えましょう。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」（伝道の書3:1）。わたしたちが、その原則を実際に適用しているかを吟味すべきです。

わたしたちが住んでいる現代においては、過去の時代よりも、多数の変化が短期間ににおいて発生しています。わたしたちがただ傍らに立って、目の前で起こる最後の出来事を見るだけだと信じるのは、大きな過ちです。

「わたしたちは重大で厳粛な出来事の門口に立っている。預言は成就しつつある。最後の重大な闘争は短いが、恐るべきものである。過去の闘争が復活し、新たな闘争が生じるであろう。」<sup>1</sup>

### わたしたちの希望は、どのようなものか？

聖書は善と悪との重大な闘争は最後の時まで続き、その後に天の王国が設立されると教えています。これに基づいて、数多くのクリスチヤンたちは、この世がどのようなかたちで終わるのかについて、自分独自の複製品を造りだしていました。

この世がいつ終わるのかという点や、最後の時代に神がとられる行動について知っているというような主張をすることはできません。わたしたちは、神の知恵に頼らなければならず、また彼の導きを信頼しなければなりません。

この世の終わりは、突然、予想外のかたちでおとずれるため、ほとんどの人々は、そのための準備が不十分です。ノアの洪水の時と同様、地上において大惨事が突然、発生

するため、多数の人々は、悔い改めて神に立ち返る時間がありません。

次の重要なことについて考えてみましょう。

「この世は劇場であり、その劇場における役者である地上の住民は、最後の偉大なドラマにおいて演じる役割のために準備をしている。」<sup>2</sup>

この重要な点について考えてみた場合、一つの質問が発生します。その質問とは次のようなものです。人々は、自分の役割を知っているでしょうか？ その人々は、それが作り話ではなく現実であると認識しているでしょうか？

今日、現代社会においては、メディアが日々の生活の一部になっています。統計によると、人々はテレビや映画が作り話であると知っているにもかかわらず、テレビや映画のヒーローやヒロインの多くが、多数の人々の模範になっています。

他方で、聖書はわたしたちには一人の模範、わたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられる主イエス・キリストがおられること、そして、キリストの模範に従うことが最も重要なことを教えています。そのため、わたしたちの役割を作られたのはどなたなのか、またわたしたちの模範はどなたであるかを知ることについて、わたしたちはもっと注意深くあるべきです。神の敵は、過去6,000年にわたり、特に最後の時代のための準備をしてきました。

最後の出来事のためのわたしたちの準備はどのような状況でしょうか？

### わたしたちの注意をひく事実

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない」（コロサイ2:8）。

現代の標準において、命に関わる神のみ言葉の真理が、人間による理論、憶測、伝統によりとてかわられてしまっています。驚くべきことに、多くの教員や福音の伝道者であると自認する人々は、聖書全体を靈感に基づく神のみ言葉として認めません。それらの人々は、最初に、聖書の一部分を拒絶し、またはほかの部分について疑問を抱く立場を取るところから始まり、彼らはしばしば、自分自身の判断が神のみ言葉よりもすぐれていると考えるようになってしまいます。それにより、聖書の権威が破壊されてしまいます。

最初に神のみ言葉について疑問を抱いたのはだれであったでしょうか？ その結末はどのようなものだったでしょうか？

### 敵の戦術を理解する

天において重大な闘争を開始したのは、サタンでした。なぜなら、サタンは、神の律法を憎んだからです。

サタンによる創造主への反逆によって、サタンが天から投げ落とされたということをわたしたちは知っています。しかし、サタンは、地上において神の律法を破壊するための悪魔の計画を継続しました。サタンは人々を騙し、彼らが神の律法に違反するように導くために、あらゆる機会を用いています。サタンがその計画を実施するために用いる戦術は、その律法全体を捨てるか、あるいは一つの規則を否定するかです。

「サタンが神の民との最後の大争闘に用いる手段は、天において大争闘を開始した時に用いたものと同じである。彼は神の統治の安定を推進しようとしているのだと公言しながら、一方においてはこれを転覆するためにひそかにあらゆる努力を傾けた。」<sup>3</sup>

神が人間の意思や良心について強制をすることではなく、これは普遍的な原則です。しかし、サタンは、それ以外の方法では騙せない人々を支配しようと倦むことなく努力を尽しています。

「それを実現するためには、【サタンは】宗教と政治の当局を通じて働き、神の律法に反抗して人間の法律を強制するよう働きかける。」<sup>4</sup>

### 危険な時代がおとずれる…

テモテ第二3:1-5に書かれている恐ろしい事柄が実現する時代に、わたしたちは生きています。また、人々は、健全な原則を聞くことにおいて喜びを見出さず、またそのような原則を聞こうとしなくなると使徒パウロは述べています。「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれでいく時が来るであろう」（テモテ第二4:3, 4）。

ある日、わたしは、他の宗派の人と聖書研究をする機会がありました。その聖書研究において、彼は、安息日に関する聖書の教えに同意しました。その後、間もなく、彼は

私のところに帰ってきて次のように言いました。「もし、安息日についてあなたが述べていることが正しいならば、なぜ、わたしは、わたしの指導者たちから、安息日について何も聞いたことがないのでしょうか？また、なぜ、安息日について理解することができない人々が多数、存在するのでしょうか？」彼は、最後に次の言葉で締めくくりました。「もし、土曜日が礼拝の日ではないと大多数の人々が信じるのであれば、恐らく彼らは正しいのでしょうか。」

それを何と呼べばよいでしょうか？

誠実さでしょうか、それとも無知でしょうか？（あるいはどちらでもないのでしょうか）

責任ある地位にある人々は、自分たちが安息日を無視し、中傷するだけではなく、講壇から人々に週の第一日目を遵守するように強く勧め、この人間の作った制度のために伝統や慣習に訴えます。

「人間が作った法によって、神の律法を置き換えること、単なる人間の権威により、聖書の安息日に代わって日曜日を高めることが、ドラマの最後の場面となる。この置き換えが全世界的になるとき、神はご自身を現される。」<sup>5</sup>

## 神の永遠の律法

もし、あなたが真実を突き止めたいならば、その真実の起源を調べるべきであると、よく言われます。その始めは、どうだったでしょうか？どこで、その回答を見つけることができるでしょうか？

ジョン・ウィクリフは次のように宣言しています。「聖書が全ての信仰者にとって、最も高い権威であり、信仰の原則であり、また、宗教的、政治的、社会生活の改革のための基盤である。」

「神の律法は、人間の創造の前から存在していた。天使たちはその律法によって統治されていた。サタンが墮落したのは、神の統治の原則を犯したためである。アダムとエバが創造された後、神は彼らにご自分の律法を知らされた。その当時、律法は書かれたものではなく、エホバによって繰り返された。」

第四条の安息日は、エデンにおいて制定された。神がこの世を造られ、また地上に人間を創造された後、人間のために安息日を造って下さった。アダムの罪と墮落の後、神の律法から何一つ取り去られるものはなかった。十戒の諸原則は、人間の墮落前から存在しており、聖なる存在たちの

秩序の状態にふさわしいものであった。墮落の後、それらの原則は変更されなかった。しかし、墮落した人間の状態に応じるために追加の原則が与えられた。」<sup>6</sup>

「安息日がいつも神聖に守られてきていたならば、無神論者や偶像礼拝者は決して発生しなかつたことであろう。」

エデンで設けられた安息日の制度は、世界の誕生と共に古い。それは創世以来、すべての父祖たちが遵守してきたものである。エジプトの奴隸時代には、イスラエル人は工事監督にしいられて、やむを得ず安息日を破った。そして、彼らはその神聖さをおおかた見失ってしまった。律法がシャイイで宣言されたとき、第四の戒めの最初は『安息日を覚えて、これを聖とせよ』という言葉であって、安息日がそのとき制定されたのではないことを示している。その創設は創造にまでさかのばる。人々の心から神を消し去るために、サタンはこの偉大な記念をくずそうとした。人々をいざなって創造主を忘れさせることができれば、彼らは悪の力に抵抗しなくなり、サタンは確実に獲物を捕えることができるのであった。」<sup>7</sup>

「『天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もするることはなく、ことごとく全うされるのである』とイエスは言われた（マタイ5:18）。天に輝く太陽、あなたの住んでいる大地は、神の律法が永遠不变のものであるという神の証人である。それらが過ぎ去ることがあっても、神の戒めは続くのである。『しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びの方が、もつたやすい』（ルカ16:17）。イエスを神の小羊としてさし示していた象徴的な制度は、キリストの死とともに廃されるのであった。だが十戒の戒めは神のみ座と同じに不变である。」<sup>8</sup>

## 歴史は繰り返す

ダニエルと彼の友人たちは、心を尽くして神を愛し、神に対して罪を犯すよりも死を選びました。しかし、このような献身は、苦しい戦いを伴います。ダニエルの友人たち3人がドラの平野において、ネブカデネザル王によって作られた偉大な偶像を拝むことを命じられたとき、テストがもたらされたことは良く知られています。彼らは、聖書を読むことにより、崇敬と礼拝に値するのは神のみであることを知っていました。神に対する彼らの信仰と信頼は非常に強かったため、それ

はバビロンの帝国の全ての住人にとって偉大な教訓を提示しました。

ダニエルおよび彼の友人たちは、神のみ言葉が、神を信じる自分たちの信仰を発達させるようにしました。ネブカデネザルは、以前、彼の夢の中における偶像の説明において、神のみ言葉を聞きました。もし、ネブカデネザルが神聖な指導の下、神のご計画における彼の役割を理解していたならば、この世の歴史はどれほど変わっていたことでしょう！悲しいことに、ネブカデネザルは、神のご計画の目的を捻じ曲げ、真理の教訓を学ぶ代わりに、彼自身の知識が彼の誇りと虚栄心を満たすがままにしてしまいました。

「その王は、彼が作った偶像の大きさ、美しさ、素材によって、神が与えたものよりも、誤った原則の方が偉大で魅力的であるかのように見せようとした。」<sup>9</sup>

全ての偽の宗教の起源は、真理を捻じ曲げることにあります。

サタンが過去において実践してきた方法と、彼が今日、人々を騙すためにどのように同じ方法を用いるかその類似性を認めるのは容易です。サタンは、サタン自身の目的を達成するために、王が神に栄光を帰すよりも、自分自身に栄光を帰すように働きかけることによって、神から与えられた光を利用しました。

「歴史は繰り返す。この時代においては、安息日の遵守という点が大きなテストとなる。．．． ドラの平野における黄金の偶像が高められたように、対抗する安息日が高められる。クリスチヤンであると自称している指導者たちは、彼ら自身が作った偽の安息日を守るよう要求する。それを拒む人々は、抑圧的な法律によって罰せられるであろう。これが不法の奥義であり、サタンが用いる考案物であり、罪の人によって実行されるのである。」<sup>10</sup>

神は、ご自分を尊ぶ者たちを尊ばれるというのが宇宙に知られた原則です。神は、過去においてご自分の忠実な僕たちを救出してこられた方法を通して、ご自分の栄光のための試練のうちにあるすべてのご自分の民といかに共におられるかを示されます。そして天の権威に反逆するあらゆる地上の権力を譴責なさるのです。

### わたしたちが学ぶべき教訓

「これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてあって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわた

したちに対する訓戒のためである」（コリント第一10:11）。

わたしたちが、自分たちの周囲にいる人々から学ぶことの重要性については、強調したとしても強調しすぎることはありません。他人から学ぶということは、受動的な行動ではなく、わたしたち自身による行動と献身を要求します。聖書に書かれている他の人々の体験を観察し、神により定められた道を理解することは、わたしたちに多大な利益をもたらします。

ドラの平野におけるユダヤ人の若者たちの体験から学ぶべき教訓は、非常に重要です。多数の神の僕たちは将来、何ら悪いことを行っていないにもかかわらず、屈辱に耐えなければならず、また、サタンによって影響を受け、妬みと宗教的偏見に満たされた人々の手によって虐待されることになります。人間の怒りは、特に第四条の安息日をあがめる人々に対して向けられ、ついには、そのような人々は死刑に値するとの全世界的な布告がなされます。

### わたしたちは、人間よりも神に従うべきである

20世紀においては、無神論の教育の一環として、共産圏の国は、反キリスト教に関する書物を配布しました。特に、ルーマニアにおいては、ニコライ・チャウシェスクによる独裁の以前においても、そのような行為が顕著に実施されました。共産主義が崩壊した後、わたしは、ブルガリアにおいて、わたしたちの教会における特に信仰深い兄弟に会う機会がありました。彼の名は、ステファン・ウングレアーヌでした。共産党の時代における信仰者たちの実際の体験を知ることは、大変な特権でした。その兄弟は、ある日、教会のユニオンの総理として、当局から呼び出され、わたしたちの教会が用いていた書物の表紙にルーマニアの指導者の写真が記載されていない理由について尋問を受けました。その当時、全ての書物の表紙に彼の写真を掲載することが強制されていました。その時のその兄弟は、次のように答えました。「わたしたちについて誤解をしないでください。わたしたちは、政府を尊重し、政府が神聖な任命に基づいていると認識しています。しかし、人間に対する敬神や崇拜を示すことは、神の御目に正しい事ではありません。政党和政府が変わったとしても、わたしたちの原則は変化しません。むしろ、わたしたちは、全ての政党のために祈っています。わたしたちの現在の立場は、過去の立場から変わっておらず、また将来

、その立場が変わることもありません。わたしたちは、神を愛し、また隣人を愛しています」。その後、長年にわたって神の民が、その原則を守ってきたことが証明されています。

「神の民は、この世の政府が神聖な任命に基づいていると認識しており、その政府に従うことは、その正当な領域において神聖な義務であると教える。しかし、政府の命令が、神の要求と衝突する場合には、神のみ言葉が人間による法律よりも重要であると認識されねばならない。『主は言われる』という言葉は、『教会や国が言う』という言葉によって置き換えられてはならない。キリストの冠は、地上の君主たちの王冠よりも高く掲げられなければならない。」<sup>11</sup>

## テストの時

「すべての人にテストがやってくる時は、あまり遠くはない。われわれは偽の安息日を守るように強制されるようになる。それは、神の戒めと人間の戒めとの間の争いとなる。世俗の要求に1歩1歩屈し、世俗の習慣に合わせてきた人々は、その時、嘲笑、侮辱、投獄と死の脅威に甘んじるよりは、地上の権力に屈するようになる。その時、金は不純物から分離される。真の信心深さが、ただうわべだけの見せかけからはっきりと区別される。われわれが輝かしさを賛美した多くの星が、その時暗黒の中に消えていく。聖所の飾りのような様子

をしてはいたが、キリストの義をまとめていなかった人々は、その時裸の恥をさらす。」<sup>12</sup>

「全ての魂は、暗黒の権力に直面しなければならない。年老いた人だけでなく、若い人々も攻撃を受ける。そのため、全ての人がキリストとサタンとの間の重大な闘争の性質を理解する必要があり、その闘争が自分自身に関わるということを悟る必要がある。全ての人々がその場面における役者であり、その闘争にあずかるのである。」<sup>13</sup>

読者の皆さん、神はあなたをご自分の奉仕にお用いになりたいと望んでおられます。この世においてあなたが占めるべき場所があります。わたしたちは皆、ドラマの最後の場面において演じる役割があります。もし、主があなたに望んでいる地位を、あなたが忠実に占めるならば、主はあなたのために働く、あなたは神の救いを見るようになります。

## 引用

1. セレクテッド・メッセージ3, p. 419.
2. 教会への証8巻, p. 27.
3. 各時代の大争闘下巻 p. 356. [強調付加]
4. 同上. [強調付加]
5. 教会への証7巻, p. 141. [強調付加]
6. 預言の靈 1巻, p. 261.
7. 人類のあけばの上巻, p. 397.
8. 各時代の希望中巻, p. 14,15.
9. サインズ・オズ・ザ・タイムズ 1897年4月29日
10. 勝利されたキリスト, p. 178.
11. 教会への証6巻, p. 402. [強調付加]
12. 国と指導者上巻, p. 156. [強調付加]
13. レビュー・アンド・ヘラルド 1883年9月25日

## キリストが聖所を去られるとき

ピーター・カイオヘン著 — フィリピン（全体を通じて強調付加）

わたしたちは、クリスチャンの年代における最後の時代に住んでおり、その時代は、ラオデキヤと呼ばれています。その1844年以降の時代は、贖罪の日の本体とも呼ばれています。わたしたちの大祭司であられるイエスは現在、天の聖所における至聖所において奉仕をなさっており、御父の前で、彼の血によって、わたしたちのために嘆願してくださっており、わたしたちの不法のために贖罪をして下さっています。その奉仕は、イエスの第二段階のみ働きであり、「以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである」（ヘブル 8:1-2）。

キリストは、天の聖所においてどのようなことをなさっているでしょうか？パウロによると、キリストは「上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである」（ヘブル9:24）。そのように天に入ってくださった目的は、わたしたちのためにとりなしをして下さることです。「だが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためによりなして下さるのである」（ローマ 8:34）。

キリストによるとりなしは、わたしたちの救いと関係しているでしょうか。もちろんです！

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである」。<sup>1</sup>なぜなら、「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのです」（ヘブル 7:25）。

わたしたちのために、そのような大祭司が存在してくださっており、その大祭司は、「彼によって神に来る人々を、いつも救うことができます」。その真理は、わたしたちにどのような勇気を与えるでしょうか？

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかつたが、すべてのこ

とについて、わたしたちと同じように試錬に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあづかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか」（ヘブル 4:15, 16）。「今、キリストは天の聖所におられる。そして、何をしておられるであろうか。彼は、わたしたちのために贖罪をなしておられ、また聖所を人々の罪から清めておられる。そのため、わたしたちはキリストと共に信仰によってその聖所に入らなければならない。わたしたちの魂の聖所における働きを開始しなければならない。わたしたちは自分たちを全ての汚れから清める必要がある。わたしたちは『肉と靈とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか』（コリント第二7:1）。…さあ、来てあなたの心を告発のうちにへりくだらせ、信仰によって天の聖所におられるキリストのみ腕をつかみなさい。キリストがあなたの告白を受け入れて、また御父の前でその御手を上げられるということを信じなさい。その両手は、わたしたちのために打たれ、傷つけられた—そしてこのお方は告白をもって来るすべての者のために贖罪をなして下さる」。<sup>2</sup>

「キリストが天の聖所において…わたしたちのためにあがないをなさってくださっている」間に、わたしたちは、「いっさいの汚れから自分をきよめ」というこの召しを真剣にとらえるべきです。なぜなら、キリストが聖所を去られ、わたしたちの罪のために贖罪をなすお方がだれもいなくなる時が来るからである。その時をあらかじめ見て、預言者ダニエルは次のように記述しました。「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます」（ダニエル12:1）。

### 悩みの時があるであろう

ダニエル章12:1とユダ書と黙示録12:7を比較し、またテサロニケ第一4:16とヨハネ5:25を比較することにより、わ

たしたちは、ミカエルがキリストに他ならないということを理解することができます。キリストが聖所における働きを終えられたとき、キリストはキリストの民のために立ち上ります。（黙示録22:11,12）。キリストは立ち上がり、報復の衣を着られ、その後、黙示録第16章において説明されている神の怒り、7つの災いが、悩みの時に下されます。

エレン・ホワイトは、この悩みの時についての幻を与えていました。彼女は次のように記述しています。「わたしには、至聖所の光景が見せられ、そこで、イエスがまだ、イスラエルのためにとりなしをなさっているところを見た。．．その後、全ての人について、救いか破壊かのいずれかに決定されるまで、イエスが至聖所から去られないのを見た。そして、イエスが至聖所での働きを終え、大祭司の衣を脱ぎ、怒りの衣を着るまでは、神の怒りがくだされることはないのを見た。その後、イエスは、御父と人間との間を去り、次に神が沈黙を破り、彼の真理を拒んだ人々に対し、彼の怒りを降り注がれる。わたしは…**わたしたちの大祭司が聖所における働きを終了されたときに、彼は立ち上がり、報復の衣をまとわれ、その後、7つの災いが降り注がれるのを見た。**

**4人の御使が、聖所におけるイエスの働きが終わるまで、地の四方の風を引き止めており、その後で、7つの災いがくだるのを、わたしは見た。**これらの災いは、悪人たちに、義人たちに対する激しい怒りを抱かせた。彼らは、われわれが彼らの上に神の刑罰をもたらしたのであって、われわれを地上から除けば災いがやむと考えた。聖徒たちを殺す布告が発せられた。そのために聖徒たちは、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった。」<sup>3</sup>

神の真理を拒んだ人々に対して、神は、彼の怒りを注ぐといわれています。彼らが真理を拒んだという事実は、どのような証拠によって認められるでしょうか？その証拠とは、彼らの額、または手に押される獸の刻印です。イエスがまだ聖所にいらっしゃる間に、地上の住人に対して、第三天使の警告が与えられます（黙示録14:9－11）。

第三天使のメッセージの真理を拒んだ人々は、神を拒んだ証拠として、額と手に獸の刻印を押されます。彼らは、創造主を伏し拝みなさいという第一天使のメッセージを拒み、獸を伏し拝むという決断をした人々です。なぜなら、次のように書かれているからです。彼は「大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』」（黙示録14:7）。

こうして、「キリストが聖所における彼のとりなしをやめられる時、獸とその像を拝み、その刻印を受ける者たちに警告された、**混ぜものがない怒りが注がれる**（黙示録14:9,10参照）。神がイスラエルを救い出そうとされた時に、エジプトにくだった災いは、神の民の最後の救出の直前に世界にくだるもっと恐ろしくもっと広範囲に及ぶ刑罰と類似した性格のものでした。黙示録の記者は、その恐ろしい災いを描写して次のように言っています。『獸の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々とのからだに、ひどい悪性のでき物ができた』（黙示録16:2）。」<sup>4</sup>

### 全ての人々の運命が永遠に決定される

キリストが聖所を去り、神の真理を拒んだ人々に対して神の怒りが下されたのち、自分たちの罪について本当に悲しむようになり、信仰によって神の恵みと救いを求めるようになる人々がいるでしょうか！過去の歴史においては、何人かの不義な者が、厳しい宣告を受けた後に悔い改めたケースがあるため、そのような人たちで救いを求めるようになる人が生じると、わたしたちは考えなくなるかもしれません。しかし、第1から第4の災いによって「ひどい悪性のでき物」ができ、「激しい炎熱で焼かれた」不義な者たちは、「悔い改めて神に栄光を帰することをしなかった」と聖書に書かれています（黙示録16:2-9）。

悪人が悩みの時において真の悔い改めを行うことはできません。なぜなら恩恵期間がすでに満了しており、全ての人々が、永遠の命か永遠の死のいずれかについて、撤回不能な決断を下してしまっているからです。そのため、義なる者と不義な者が入れ替わるというようなことは生じません。不義な者が義なる者に変わるということは、もはや不可能です。なぜなら、不義な者はさらに不義を行い、義なる者はさらに義を行うからです（黙示録22:11参照）。

この世における恩恵期間は、いつ終わるでしょうか。その出来事は、天の雲の上でキリストが来臨なさる直前に発生します。義なる者と不義な者は同じ状態を続けるという厳格な宣告の直後において、「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」（黙示録22:12）という記述があることから、以上の事実は明らかです。

「調査審判の働きが終わる時、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が天の雲に乗って来られる少し前に終了する。」<sup>5</sup>

### 恩恵期間が閉じる正確な日付は明らかにされていない

キリストが天の雲の上にのって再臨なさる前にキリストが聖所を去られるとき、わたしたちの恩恵期間が閉じられることが主によって明らかにされています。しかし、恩恵期間が閉じる正確な日付は明らかにされていません。

「いつ恩恵期間が終わる…時には、神は、わたしたちに明らかにしてこられなかつた。…明らかにされていることは、わたしたちおよびわたしたちの子どもたちは受け入れる。しかし、全能者による会議によって秘密とされた事柄を、わたしたちが探ろうとするのはやめよう。…

恩恵期間が閉じるときに関して何らかの特別な光をわたしに受けているかについて質問する手紙が、複数わたしに届いた。そのとき、わたしは唯一次のようなメッセージを有していると答える。すなわち、わたしたちは、昼間である間に働くべき時は今である。なぜなら、だれも働けない夜が来るからであると。今、ちょうど今こそ、わたしたちが見張り、働き、待つべき時である。…しかし、恩恵期間が終わる時を突き止めるために、もし可能であれば、聖書を調べよとの命令はだれにも出されていない。神には、どの死すべき人間のくちびるにも、そのようなメッセージを与えてはこられなかつた。神は、神の秘密の会議によって隠してこられたことを、死すべき人間の舌が宣布することを喜ばれない。」<sup>6</sup>

もちろん、世界のための全般的な恩恵期間が閉じられることについては言及しています。しかし、わたしたちは次のみ言葉に留意しなければなりません。「さばきが神の家から始められる時がきた」（ペテロ第一4:17）。そして、わたしたち個人個人の恩恵期間の満了時点が、キリストが聖所をさられる時点とは限りません。恩恵期間は、まず現代の真理を知っている人々に対して閉じ、その後、その真理を一度も聞いたことのない人に閉じるのです。

主の使者は次のように説明しています。「自分たちのテストと機会の日が到来したが、神の声を聞き分けなかつた人々、あるいはこのお方の御靈の働きかけを感謝しなかつた人々の横を聖靈が過ぎ去ると語るとき、自分自身の言葉を述べているわけではない。そして、幾千もの人々が5時になつて真理を悟り、認めるようになるのである。」<sup>7</sup>

「神による破壊の裁きの時は、何が真理であるかを学ぶ機会がなかつた人々にとっては恵みである。主は、そのような人々を優しい目でご覧になる。その憐れみの心が動かされる。入ろうとしない人々に対して戸は閉じられているが、主のみ手は救うためにお差し伸べられてい。最後の時代において初めて真理を聞いた人々の多くが主によって受け入れられるであろう。」<sup>8</sup>

### 恩恵期間は突然、予期せず閉じる

「真夜中の盗人のように静かに、人に気づかれずに、すべての人の運命が定まる決定的な時、罪人に対する恵みの招きが最終的に取り去られる時がやって来る。…実業家が利益の追求に心を奪われ、快樂の愛好家が楽しみにふけり、流行を追う女性が身を飾っているそのときに、全地の審判者が、『あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた』という宣言をなさるかもしれない（ダニエル5:27）。」<sup>9</sup>

「同じように、聖所での、取り消すことのできない判決が発表され、世界の運命が永遠に定まつても、地上の住民はそれを知らないであろう。」<sup>10</sup>

### 神のみ言葉についての飢饉

神のみ言葉についての飢饉が発生するということが聖書によって預言されています（アモス8:11,12参照）。

この主のみ言葉を聞くことについての飢饉はいつ発生するでしょうか？その飢饉は、キリストが聖所を去り、恩恵期間がすでに閉じ、災いが地上に下されている間に発生する予言の靈は述べています。次のような幻が示されました。

「地の住人たちの上に災いが下された。何名かの人々は神を非難し、呪っていた。他の人々は神の民たちのところに殺到し、神の裁きを免れるができる方法を教えてくれるよう嘆願していた。しかし、聖徒たちが彼らに伝えるべきことはなかつた。罪人たちのための最後の涙はすでに流されており、苦しみを伴う最後の祈りはすでになされており、最後の重荷は担われ、最後の警告はすでに発せられていた。彼らを招くための芳しい憐れみの声は、もはや聞かれなかつた。聖徒たちや全天が彼らの救いについて関心をもつていたとき、彼らは自分自身について関心がなかつた。命と死が彼らの前に置かれていた。多くの人々は命を望んだが、それを獲得するために何の努力もしなかつた。彼らは、命を選ば

なかつた。そして罪人を清めるための贖罪の血も、彼らのために嘆願し、『その罪人をもう少し生き延びさせてください』と呼ばれる同情深い救い主も存在しなかつた。全天は、『事はなつた。すべては終わつた』という恐るべき言葉を聞いたとき、イエスと一致していた。救いの計画は完了したが、それを受け入れた者はほとんどなかつた。そして、憐れみのやさしいみ声が消え去つた後、恐れと恐怖が悪人をとらえた。彼らは、恐ろしくはつきりと『遅すぎた！ 遅すぎた！』という言葉を聞いた。

神のみ言葉を尊んでいなかつた人々が、海から海へ、北から東へとさすらいながら、神のみ言葉を求めて、あちらこちらへと急いでいた。天使は言った。『の人たちは、神のみ言葉を見つけることができない。地にはききんがある。それは、食物に飢え、水にかわくきんではなくて、神のみ言葉を聞くことのできないききんである。彼らは、神からただ一言のおほめのことばをいただくことさえできるなら、何ものも惜しまないだろう。しかし彼らは飢え渴きつづけねばならない。彼らは来る日も来る日も救いを軽んじ、天の宝や勧めよりも、この世の富やこの世の快樂を大事にしていた。彼らはイエスをこばみ、彼の聖徒たちをあざけつた。けがれたものはいつも、けがれたままなのだ』と。』<sup>11</sup>

## 第二の恩恵期間はない

「わたしたちは、現在与えられている機会を最大限、活用しなければならない。天のために準備するためにもう一度恩恵期間が与えられることはない。これは、主の戒めに忠実であった人々のために主が用意された将来の家にふさわしい品性を形成するための唯一かつ最後の機会である。.

..

全ての人々は、与えられた光の量に従つて裁きを受ける。真理に目を背け、作り話に目を向ける人々のための第二の恩恵期間は存在しない。一時的な千年紀というものは存在しない。もし、聖霊が心に確信を与えたにもかかわらず、彼らがその真理を拒み、他の人が真理を受け入れないよう道を塞ぐために自分の感化を用いるならば、決して確信が与えられることはない。彼らは、与えられた恩恵期間中に品性の変化を求めなかつたため、キリストがもう一度地上を歩く機会をお与えになることはない。その決定は最終的なものである」。<sup>12</sup>

## 悩みの時におけるわたしたちの保護

わたしたちはキリストが聖所を去り、恩恵期間が閉じるとき、不正な汚れた人々がその額や手に獸の刻印を受け、憐れみをまじえない神の怒りのぶどう酒を飲むこと、憐れみを混じえずに注がれる最後の7つの災いを見てきました。そして彼らは、聖なる天使たちと小羊の前で、火と硫黄によって苦しめられます。

義であり、聖なる人々についてはどうでしょうか？彼らもまた、不義なる人々と同様、災いによって懲らしめられるのでしょうか。もちろん、違います！恩恵期間が閉じ、そのまま悩みの時に入るとき、彼らの額には生ける神の印が押されています。

主の使者は、次のように説明して述べています。「わたしは、かつてないほどの悩みの時を目撃した。イエスは、それがヤコブの悩みの時であり、わたしたちは、神のみ声によってそこから救出されると言われた。わたしたちが〔悩みの時〕に入る直前に、生ける神の刻印を受けます。それから、わたしは4人の御使たちが、四方の風を引き止めているのを見た。また、わたしは飢饉、疫病、剣を目撃し、国に対して国が立ち上がり全世界が混乱のうちにあるのを見た」。<sup>13</sup>

## わたしたちにとっての唯一の防御

生ける神の刻印は、悩みの時に神の民を守るための全能の神による覆いであり、その覆いによって、彼らは災いから守られました。エレン・G・ホワイトは次のように述べています。「わたしは、神が悩みの時に神の民を守るために、彼らの上にかけておられる覆いを見た。そして、真理の側に立つ心の清い者は、全能の神の覆いに隠されたのであつた。」<sup>14</sup>

「サタンはちょうどこの印する働きの時において、このような方法で、神の民の心を反らし、  
欺き、神から引き離そうとしているのをわたしは見た。…  
サタンは印する働きが終わり、神の民の上に覆いがかけられるまで、彼らをそのままの状態にしておき、最後の7つの災いが下る時に、神の燃える怒りを彼らが避けることができないようさせようと、あらゆる策を弄していた。」<sup>15</sup>

したがつて、悩みの時におけるわたしたちの唯一の防御は、額に生ける神の刻印を受けることであり、こうしてわたしたちは災いの懲らしめから守られます。印を受けるということは、真理の中にとどまるということです。聖書には次のように

書かれています。「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく」（エペソ4:14）。

「神の民がその額に印を受けるや否や—その印は見える印やしるしではなく、知的にも靈的にも真理に定着し、動かされ得ない—とどまるというものである」。<sup>16</sup>

さらに、わたしたちが印を受けるためには、不義から離れてはなりません。次のように書かれています。「主の名を呼ぶ者は、すべて不義から離れよ」（テモテ第二2:19）。

わたしたちが印を受けるためには、罪が「はなはだしく悪性なもの」（ローマ7:13）であると認識されなければなりません。それにより、わたしたちが罪を避けるようになるからです。わたしたちは、今後、罪に対して無関心であつてはなりません（エゼキエル9:4参照）

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければなりません。

救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかつた。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言されました（ヨハネ14:30）。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかつた。

神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかつた。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」<sup>17</sup>

「わたしたちの品性の中に一つでもしみや汚れがある間は、一人たりとも神の印を受けることはできない。わたしたちの品性における欠点を克服するか否か、わたしたちの魂の宮から全ての汚れを取り除くか否かは、わたしたちの選択に委ねられている。その後、ペンテコステの日において弟子たちに前の雨が降り注いだのと同様、後の雨がわたしたちに降り注がれる。」<sup>18</sup>

印を受けるための条件と後の雨を受ける条件が同一であることに注目しましょう。神の印を受ける人々は、聖なる人々であるとヨハネは述べています。「彼らの口には偽りが

なく、彼らは神の御座の前に傷のない者であった」（黙示録14:5欽定訳）。そのため、わたしたちは印を受けるためには、イエスが天の聖所における至聖所を去られる前に、神の恵みにより罪を克服しなければなりません。

## 引用

<sup>1</sup> 各時代の大争闘下巻 p.222.

<sup>2</sup> エレン・ホワイト1888年原稿 p. 127.

<sup>3</sup> 初代文集, p. 97.

<sup>4</sup> 各時代の大争闘下巻 p. 403.

<sup>5</sup> 同上, p.225.

<sup>6</sup> レビュー・アンド・ヘラルド October 9, 1894.

<sup>7</sup> セレクテッド・メッセージ 2, p. 16.

<sup>8</sup> SDA バイブル・コメント[E・G・ホワイト・コメント]7, p.979.

<sup>9</sup> 各時代の大争闘下巻 p. 225,226.

<sup>10</sup> 同上, p. 387.

<sup>11</sup> 初代文集, p. 454,455.

<sup>12</sup> 最後の出来事 p. 236, 237.

<sup>13</sup> 明星1846年3月14日

<sup>14</sup> 初代文集, p. 107.

<sup>15</sup> 同上, p. 108,109.

<sup>16</sup> SDA バイブル・コメント[E・G・ホワイト・コメント]4, p.1161.

<sup>17</sup> 各時代の大争闘下巻 p. 397.

<sup>18</sup> 教会への証5, p. 214.

## 祝福された望み

アベル・モラレス — アルゼンチン

ペルーのランバイケ県にある有名なシパン王墓博物館を訪れると、興味深い物を見ることができます。その博物館では、シパンの長、モチエ文化の支配者であるシパン王の所有物が展示されています。その支配者は、紀元後3世紀において、現在のペルー北部を支配していました。

研究者たちによって構成されるチームが1987年にこの考古学に関する場所、すなわち南アメリカにおけるインカの前の文化に関するものであり、20世紀における発見としては主要なものであると認識されているところを発掘しました。

シパン王のミイラを観察すると、彼の生活スタイルや希望を理解することができます。

・彼の王としての服装は、死後においても彼の支配を継続したいという傲慢な願望を示しています。

・彼が崇拜していた主要な神であるアルペックに関する複数の骨董品

・20個の金と銀の粒によって作られているネックレス。それらの粒は、太陽と月を表しており、そのネックレスは、それが到達したいと願っている光と暗闇との間において完全に靈的なバランスを表現しています。

・鼻、目、耳をおおうもの等の彼の顔に関する副葬品は、全て素晴らしい金によって作られており、その副葬品は、彼の顔を不死のものとする願望を表しています。

・彼の所有物であったと思われるもの—妻、二人の側室、軍隊の長、見張り、兵士、一人の子ども、一匹の犬、二頭のラマ（アンデス地域に住んでいる動物であり、彼のための犠牲として捧げられた動物）—を表現する副葬品。

これらは、彼の靈的な希望の中心を表現しています。その希望とは、彼の所有物、および彼にとって最も重要であった人々と共に、永遠に生きるということです。

### むなしい希望

「むなしい偶像に心を寄せる者は、そのまことの忠節を捨てる」（ヨナ2:8）。

この世で権力や永遠の若さを獲得しようとするシパン王のような生き方をすることは、最も無駄な希望で成り立っています。しかし、さらに残念なことは、永遠の福音を知っているながら、彼と同じような過ちを犯してしまう人です。

「ソロモンは、象牙により作られた王座に座り、その王座の階段は金によって作られ、側面には6つのライオンの像がおかれていた。彼は非常に美しく、よく手入れされている庭園を見ることができた。その庭園の景色は美しい光景で、できるかぎりエデンの園に似せて作られていた。選びぬかれた木々、灌木、あらゆる種類の花々がそれらを美しく飾るために外国から運ばれてきた。様々な色の翼をもつ鳥たちが木々を飛び回っており、空中を甘い鳴き声で満たしていた。若い付き添い人たちは贅沢に着飾り、彼の最も小さい願いに従うために控えていた。宴会、音楽、スポーツ、ゲーム等の彼の気晴らしのために、驚くほど多額の金銭が使われた。

しかし、これらがその王を幸せにすることはなかった。ソロモン王は、偉大な王座に座っていたが、彼の渋面は暗く絶望していた。かつては美しく知的であった彼の顔に、道楽が痕を残した。悲しいことに若いころのソロモンとは別人になった。思い煩いと不幸により、彼の額にはしわが刻まれ、官能的な放縱の紛うことのないしるしが一つ一つの容貌に見られた。彼のくちびるは、自分の希望からほんのわずかでも外れる時には、すぐに非難を吐き出す用意をしていた。

彼の壊れた神経と摩耗した体は、自然の法則から逸脱した結果であった。彼は無駄な人生、幸福を求めたものの失敗したことを告白した。彼は嘆き、『みな空であって風を捕えるようである』と告白した。」<sup>1</sup>

### 希望をもって生きる！

ブラジルの「エベネゼル伝道学校」の生徒たちは、オアシス・パラナエンセという自然療法の病院で働いています。ある日

、二人の末期がんの患者が入院しました。そのうちの一人には、定期的に、妻と子どもたちが訪問していました。彼らとの会話において、その患者は嘆きと否定的な表現で空気を満たしていました。彼がいつでも単純な自然療法に対する不信感を表現するときのその妻の顔を見れば、彼の態度が悪いことは明白でした。彼女はわたしたちにたずねました、「自分自身の否定的な態度のゆえに運命を決めているこの人を、どうやったら励ますことができるでしょう？」。その数か月後、その患者は、不運な状況の中で亡くなりました。

その部屋の反対側では、全く逆の光景が見られました。その患者の病状も同じようなものでした。その患者は、訪問者という祝福すら得ることができませんでしたが、正反対の態度をとっていました。わたしたちが治療を施すためにその部屋を訪ると、彼は喜びと希望の表現でその部屋を満たしました。彼の態度は、彼の全存在のうちに治癒力を働かせ、また、彼を支える人々のうちに治癒力をもたらしました。

皆さん、結果を予想できるでしょうか？ある日、わたしたちは日課に従ってその部屋に入りましたが、いつもと違う状況に気付きました。彼はトイレにいましたが、わたしたちは、彼がなぜずっと沈黙を保っているのかが分かりませんでした。わたしたちはついに彼に何が起ったのかを見るために入りました。わたしたちは彼の口の中にある物体によって、彼が話すことができなかったのを発見しました。その変形した固まりは、中くらいのオレンジほどの大きさでした。当直の専門家の指導に従って、彼はすぐにクリチーバ市にあるクリニカ病院の治療室へと運ばれました。そこで、その物体がガンの腫瘍であることが判明しました。その腫瘍は、奇跡的に、自然と完全に根から取り除かれていたのです。

その知らせを彼に伝えた日、わたしたちは彼のそばにいましたが、彼の印象的な飛び上がるほどの喜びを見ました。彼はわたしたちをだきしめ、わたしの記憶から決して消えることのない表現を用いました。彼は叫んで「わたしは、最初の日から、この自然療法に希望をもっていました！」。

その後、わたしはその若い男性に会っていませんが、希望が神聖なみ腕を動かし、身体的な反応を引き起こして彼の器官を健康であふれかえらせたことは確信できました。確かに、腫瘍は、成長しうる環境を失ったのです。

もし、わたしたちが希望をもって生きることを学ぶならば、わたしたちは、勝利の表現によって空気を満たし、もっとも希望のない人にさえ影響を及ぼすようになるのです。

### 活動的な希望

アメリカのニュー・イングランドという地域において、発電のために非常に重要なダムが建設される必要がありました。そのダムが建設される予定の地域には、美しい家の並ぶ一つの村がありました。政府は住民に伝えました。「ダム建設のプロジェクトは何年もかかります。わたしたちはすでに契約を締結し、今やみなさんの家は、州の所有物となりましたので、しばらくの間は、そのままそこに住むことができますが、その後は、永久にその場所から立ち去らなければなりません」。

その町は素晴らしいものでしたが、その日から劣化が始まりました。住民は、彼らの家を修繕しなくなり、庭を手入れすることもなくなりました。その結果、かつては美しかった町が、みじめな姿になってしまいました。なぜ、そのような変化が起ったのでしょうか？彼らが希望を失ったからです。

預言を学ぶことを止めてしまった多くのクリスチヤンたちは、教会の栄光に満ちた未来に関する本当の希望をもっていません。その希望の喪失の結果は、不活発で惨めな生活です。

「主の再臨は、各時代において、神の眞の弟子たちの希望であった。また来るという、オリブ山上での救い主の、離別にあたっての約束は、弟子たちの未来を明るく照らし、彼らの心を喜びと希望で満たし、どんな悲しみも試練もこれを消し去ることはできなかった。苦難と迫害のただ中にあって、『大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現』は、『祝福に満ちた望み』であった。…

聖徒や殉教者たちは、牢獄、火刑柱、処刑台において、真理のあかしを立てたが、彼らの信仰と希望の言葉が、幾世紀後のわれわれに伝えられている。彼らは、『主の復活を確信し、したがって主の再臨の時に彼ら自身も復活することを確信していたので、彼らは死を恐れず、死を超越していた』と、あるキリスト者は言っている。『主よ、この祝福された日を早めてください』。これが使徒時代の教会の希望であり、『荒野の教会』の希望であり、また改革者たちの希望であった。」<sup>3</sup>

聖書は古代から、キリストの再臨の確かさについて宣言しており、キリストの教会が活動し続けるようにしてきました。さらに預言は、しるしのあらましを述べ、すべての人が時を知つて準備ができるようにしています。

### 希望のしるし

「黙示録の記者も、再臨に先だつ第一の印を次のように描写している。『大地震が起つて、太陽は毛織の荒布のようにな黒くなり、月は全面、血のようになり』（黙示録6:12）。

こうしたしるしは、19世紀の開始前に起きました。この預言の成就として、1755年に、これまでの記録を破る恐ろしい地震が起きた。これは、一般にリスボンの地震と言われているが、ヨーロッパの大部分、アフリカ、アメリカにも及んだ。グリーンランド、西インド諸島、マデイラ島、ノルウェー、スウェーデン、大ブリテン（英国）アイルランドでも感じられました。その範囲は、400万平方マイルに及びました。アフリカでは、ヨーロッパと同様の激震でした。」<sup>4</sup>

「日と月が暗くなるという預言の次のしるしは、その25年後にあらわれた。…1780年5月19日に、この預言は成就した。…

ろうそくに火がつけられた。炉の火は、月の出ない秋の夜のようにあかあかと燃えた。…鶏は巣に帰つて寝た。家畜は、牧場の柵に寄つてきて鳴いた。カエルが鳴き、小鳥は夜の歌をうたい、こうもりは飛びかかった。しかし、人間は、夜がきたのではないことを知つていた。」<sup>5</sup>

「夜半後になってやみは消え、月が見えはじめたが、その時、それは血のようであった。

1780年5月19日は、歴史上『暗黒日』となっている。モーセの時代以来、これほどの濃さと広さと時間的長さをもつた暗黒は、記録されていない。」<sup>6</sup>

「まもないキリストの来臨についてミラーが公表してから2年が経過した1833年には、救い主の再臨の印としてこのお方が約束された最後のしるしが現われた。イエスは次のように述べられた、『星は空から落ち』（マタイ24:29）…。この預言は、1833年11月13日の偉大な流星のシャワーにより、大変印象的なかたちで成就した。その流星は、これまでに記録されたもののうち、最も広範囲で美しい光景であった。」<sup>7</sup>

### 希望を裏付けた解釈の諸原則

「1840年には、もう一つの偉大な預言の成就が広範囲に関心を引き起した。その2年前には、キリストの再臨に関する指導的な伝道者の一人であるジョサイア・リッチは、オスマン・トルコの滅亡に関する黙示録第9章に関する書き物を公表した。彼の計算によると、この権力はくつがえされるのであった。…『コンスタンチノープルにおけるオットマンの権力が崩壊すると期待されるのは、1840年8月11日であろう。そしてこうなるであろうことをわたしは信じているのである。』（ジョサイア

・リッチ、サインズ・オブ・ザ・タイムズの中の預言の解説1840年8月1日）

定められたまさにその時に、トルコは、大使を通じて、ヨーロッパの同盟諸国の保護を受けることを承諾し、かくて自らをキリスト教諸国家の支配下においた。この事件は、預言を正確に成就するものであった（付録参照）。このことが人々に知れわたると、多数の者が、ミラーとその同僚たちが採用している預言解釈の原則の正確さを確信し、再臨運動が一段と促進されることになった。」<sup>8</sup>

### しかしながら、多くの人々は無関心なのか？

「救い主は、ご自分の来臨のしるしを弟子たちに示された時に、ご自分の再臨の直前に存在するであろう背教の状態を予告された。ちょうど、ノアの時代のように、世俗の事業と快楽の追求に忙殺されて、売り買い、植え、建築、とつぎ、めどりなどして、神と将来の生涯を忘れてしまうのであった。現代に生きている人々のために、キリストは次のように訓告される、『あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい』（ルカ21:34）。」<sup>9</sup>

靈的な盲目、貪欲、背信、暴飲暴食、放縦は、希望のない生活の確かな結果です。そのような生活は、確実に、不注意かつ無関心なものになります。本当の「祝福された希望」がわたしたちの生活にもたらす対照的な結果について、分析しましょう。

### 本当の希望による効果

「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現

れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」（ヨハネ第一 3:2, 3）

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの靈と心とからだと完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように」（テサロニケ第一 5:23）。

神のみ言葉が忠実に説かれてきたところではどこでも、改心した人々が、悔い改めにふさわしい実を結びました。「この人々は、悔い改めにふさわしい実を結んだ。彼らは信じてバプテスマを受け、キリスト・イエスにあって新しく造られた者として、新しい生活を始めた。彼らは以前の欲に従うことなく、神のみ子を信じる信仰によって、み足の跡に従い、主の品性を反映し、主が清くあられるように自分たちも清くなろうとした。彼らは、かつて憎んだものを愛し、愛したもの憎むようになった。高慢で自負心の強い者は、柔和で謙遜になった。虚栄心があつておうへいな者は、はじめてひかえ目になった。低俗な者は敬虔に、酒のみは謹直に、そして放蕩俗のむなしい流行は、放棄された。」<sup>10</sup>

愛する皆さん、もし、わたしたちの希望が本物であるならば、わたしたちは、キリストの地上への再臨について希望を持つだけでなく、わたしたちの最大の目標は、このお方が決定的にわたしたち自身の生活に戻ってこられ、ひいては教会に戻ってこられることになります。わたしたちの願いは、魂の敵をわたしたちのただ中から、彼の気を逸らせるものと共に追い出すことになるべきです。それらは、日常生活においてわたしたちをイエスから逸らしてしまいます。サタンは、わたしたちを主から離れさせる様々な悪への傾向の引き金を引くという特別な任務と共に悪霊たちをつかわすことによって、人々の心を支配します。

## 特別な悪霊たち？

特別にわたしたちの弱点を攻撃する悪魔について説明している預言の靈について考えてみましょう。

「悪霊たちは、最初、罪のないものとして創造され、その性質と力と栄光において、今神の御使である聖なる存在者たちと同等であった。しかし、罪のために墮落して、彼らは神のみ名を汚し人間を破滅させるために団結しているの

である。彼らはサタンの反逆に加担し、彼とともに天から追放され、各時代を通じて、彼と協力して神の権威に逆らつて戦ってきた。聖書には、彼らの同盟と政府、種々の階級、その知性、陰険さ、人間の平和と幸福を破壊しようとする悪だくみのことが記されている。」<sup>11</sup>

「王の心にしつとの鬼が入った。彼は、イスラエルの女たちが、彼よりもダビデをほめそやしたのを怒った。」<sup>12</sup>

イエスが地上に来られたとき、「神の住居としてつくられた人間の体は悪霊の住居となっていた。人間の感覚、神経、欲望、器官は、超自然の力によって、最もいやしい情欲をほしいままにするために働かされた。悪霊の印そのものが人間の顔つきにおされた。」<sup>13</sup>

その引用されている言葉は明白です。サタンは、彼の手下を組織し、わたしたちの弱点を突くことによって、わたしたちが怠惰になるように仕向けています。もし、わたしが貪欲で、噂話が好きで、不誠実で、わがままで、不節制で、放縦が好きで、忍耐力がなく、嘘つきで、怠け者で、表面的で、虚栄的であるなどがあれば、たしかに何人かのサタンの悪の代理人たちは、わたしの弱点のいくつかを激しく突くために派遣されます。古いことわざにあるように、「あなたが打ち勝たない物は、あなたに打ち勝つ」。

## 希望はあるか？

もしわたしたちが、そのような望ましくない品性の欠陥をもっていたとしても、失望すべきではありません。なぜなら、預言の靈は、次のように述べているからです。「罪のために墮落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりもほかにない。主は人間の意思を支配していた悪霊たちを追い出すために来られたのである。」<sup>14</sup>

ユダ・イスカリオテの場合でさえも、「もし、彼がキリストに心を開いていたならば、神聖な恵みによって利己心という悪霊は追い出されたのである。」<sup>15</sup>

最後にマリヤについても、最初は「墮落し、その思いが悪霊のすみかとなっていた者も、救い主に非常に近く、その交わりと奉仕の中に導き入れられたのであった。」<sup>16</sup>

「キリストの腕は、苦しみと墮落のどん底にいる人にも届くことができる。このお方は恐ろしい不節制という悪霊にさえ打ち勝つための手助けを与えることがおきになる。」<sup>17</sup>

1927年に、S-4と呼ばれる潜水艦がメキシコ湾で沈みました。その乗組員たちを救うために、多数の船が派遣され

ました。その救急作戦において、ある優秀なダイバーは、その船の壁に対し、ある音が届いていることに気付きました。その音は、モールス信号でした。彼は、その信号を解読し、直ちにメッセージを送りました。その潜水艦の乗組員たちは「まだ希望はありますか?」、「まだ希望はありますか?」と質問をしていました。その質問への回答は、わたしたちが住んでいるこの世が知りたいものです。そして今度はわたしたちが彼らに、わたしたちもまた同じ方法によって生きるのであることを思い起こさせる番です。

かつては、「キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であった」(エペソ 2:12)。

「わたしたちも以前には、無分別で、不従順な、迷っていた者であって、さまざまの情欲と快樂との奴隸になり、惡意とねたみとで日を過ごし、人に憎まれ、互に憎み合っていた。ところが、わたしたちの救主なる神の慈悲と博愛とが現れたとき、わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖靈により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖靈は、わたしたちの救主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである」(テトス 3:3-7)。

### わたしたちはどのような希望をもっているか?

今日の教会の大多数を見ていると、次のような質問が生じます。わたしたちの希望は、シパン王の希望のように根拠のないものでしょうか?わたしは、ソロモン王のように神の愛を浪費していないでしょうか?使徒たちの教会や改革者たちの教会が有していた活発で熱い希望は、わたしたちの中では消えてしまったのでしょうか?

わたしたちの生活の中においては、何が起きているのでしょうか?わたしたちは、冷めてしまったのでしょうか?わたしの個人的な奉仕は、お金儲けによってとてかわられてしまったのでしょうか?人気のある教会になりたいという願望によって、わたしたちは現在の物事の順序が終わる厳肅な日を将来に押しやってしまうのでしょうか?

救い主に関する預言者のように、次のように叫びましょう。「どうか、あなたが天を裂いて下り、あなたの前に山々が震い動くように」(イザヤ 64:1)。

兄弟たちよ、この熱心な願いがわたしたちを個人として、また民として導き、真のクリスチヤン生活を送るものとなりますように!

「初代のキリスト者たちは、実際、特殊な民であった。彼らの非難するところのない行状と確固たる信仰とは、絶えず罪人の心を責めるものであった。彼らは数が少なく、富も地位も名譽ある称号もなかったけれども、その品性と教義とが知られているところではどこでも、悪を行なう者たちにとて恐怖であった。」<sup>18</sup>

それによって、改革運動の人々が次のような人たちであることを、この世は否定できなくなります。「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている」(テトス 2:13)。

アーメン、アーメン!

### 引用

- <sup>1</sup> SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント]3巻 p. 1165.
- <sup>2</sup> 各時代の大争闘上巻, p. 389.
- <sup>3</sup> 同上. p. 391.
- <sup>4</sup> 同上. p. 391,392
- <sup>5</sup> 同上., p. 394.
- <sup>6</sup> 同上., p. 396.
- <sup>7</sup> 同上下巻., p. 24.
- <sup>8</sup> 同上.,
- <sup>9</sup> 同上上巻., p. 398.
- <sup>10</sup> 同上下巻., p. 188.
- <sup>11</sup> 同上., p. 254.
- <sup>12</sup> 人類のあけばの下巻 p. 325.
- <sup>13</sup> 各時代の希望上巻, p. 27.
- <sup>14</sup> 同上., p. 28.
- <sup>15</sup> 同上 p. 294.
- <sup>16</sup> 同上 p. 568.
- <sup>17</sup> 家庭の教育, p. 401.
- <sup>18</sup> 各時代の大争闘上巻, p. 39.

## 時のしるし

サラサラ音を立てて、木の葉がわたしの座っている  
 あたり一面に落ちていた  
 太陽の輝く日は過ぎ去って  
 何かが足りない—何だろう？  
 夏、その日光と共に  
 花の香りは消失してしまった  
 そして秋、そのやさしさのうちに  
 地面を赤をちりばめている

夏がいつ過ぎ去るかを知らせるのに、  
 先見者はいらない  
 冬が近いと言うのに  
 預言はいらない  
 わたしたちは夏のしるしを知っている  
 そして秋のしるしも、冬も、春も  
 しかし、王の来臨を告げるしるしは  
 知っているであろうか？

しるしははっきりと記されている  
 ただそれを見さえすれば  
 祝福されたページの中を  
 偉大な昔ながらの本のページを見れば  
 このお方の出現の日は  
 今確かに近づいている—  
 わたしたちのまわりには至る所にしるしがある  
 地にも海にも空にも

このお方の花嫁は準備をしつつある  
 彼女が恵みの衣を身に着けるとき  
 彼女は栄光とこのお方の御顔のほほえみを  
 見るために待っている  
 見よ！このお方は速やかに来られる！  
 見よ、花嫁は近づいている！  
 わたしたちの周りには至る所にしるしがある

知にも海にも空にも  
 あなたは晚餐の用意ができるだろうか  
 小羊の婚宴のために？  
 あるいはそれはあなたにはただの茶番、  
 理論、詐欺なのだろうか？  
 あなたは「その話は聞いたことがある、  
 ああ、今までに何回も」  
 それでありながら、あなたは気づかない  
 花婿が戸口まで来ておられることを

このお方の準備の日、  
 そしてこのお方の雲と闇の日  
 このお方の恐るべき暗闇の日  
 そしてこのお方の恐るべき運命の日  
 永遠の刑罰の恐怖の日は急いでいる  
 すべての不信心な人々の  
 彼らは洞穴の中にかくれがを求める  
 そのときどんな逃げ場でも

主よ、早く来てください！  
 わたしたちが日々待っている時に  
 「見よ！わたしはすぐに来る」  
 今、わたしは御靈が言うのを聞く。  
 わたしたちは長くここにとどまる事はない  
 地にも海にも空にも  
 しるしは確かに告げている  
 このお方の御国は近いことを  
 —著者不明